

建築と社會

新 建 築 集

第 十 六 輯
第 七 號

日本建築協會

昭 和 八 年
七 月 一 日

三建式 鈴木式 鋼製建具

寫眞ハ最近竣工セル
大阪市内ノ三大建築ニ
シテ何レモ大量御採用
ノ榮ヲ蒙リ候



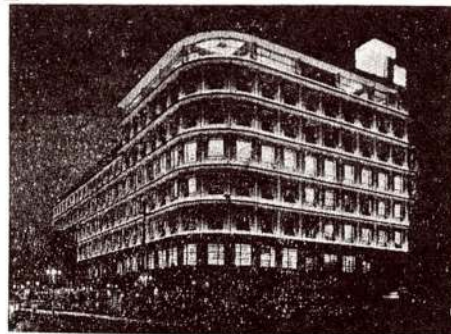
伊藤萬商店

設計 小笠原建築事務所殿
施工 大林組殿



大丸

設計 ヲーリス建築事務所殿
施工 竹中工務店殿



大阪瓦斯株式會社

設計 安井建築事務所殿
施工 大林組殿

三建工業株式會社・建築金物商會一手販賣總代理店

三機工業株式會社

支店 大阪市東區備後町——野村ビル内
電話本町(24)・1166(2)・1525

本店 東京市麴町區有樂町——三信ビル内
電話銀座(57)代表5141(9)・長5140

出張所 大連市山縣通——日本郵船ビル内電話5705

出張員 名古屋市中區天王崎町——三井物産株式會社内
電話西2500(5)

取扱店 三井物産株式會社——各地支店・出張所

(型錄贈呈)



日米特許一二個・實用新案登録四六個併用

大野式防火捲上ヶ戸

〔特許大野式シャッター〕

主 要 製 品

大 野 式 シ ャ ッ タ ー
大 野 式 ル ー プ ル シ ャ ッ タ ー
大 野 式 工 場 用 軸 承
大 野 式 轉 子 入 軸 筐
大 野 式 轉 子 入 戸 車
大 野 式 廻 轉 軸 抵 抗 測 定 機
各 種 防 火 扉

日英米佛特許三一個・實用新案五九個併用

特許不二サッシ

受 托 營 業

合 資 社 大 野 製 作 所

東京市芝區三田四國町二番地・電話三田(45) 三三三六
三三七六

東京出張員事務所・大阪市此花區上船島中二・電話船島(45)五八八

會 告

創立滿十五年記念事業（第二期計畫）

1 阪和上野芝住宅博覽會

豫て御披露致しましたる同會は6月30日を以て好評を博しつゝ盛會裡に閉會を致しました。

2 瑞光住宅博覽會

本會は9月15日開會10月31日閉會の豫定を以て新京阪沿線上新庄驛より東方約4丁瑞光住宅地に於て開催致します、目下諸準備中であります。

3 滿洲見學舉行

豫て希望者を募集致しました結果、十餘名の應募者を得愈8月10日神戸港を出發見學旅行の途に著く豫定であります。

4 滿洲建築協會外三會聯合大會

8月14日を期し大連市に於て我が日本建築協會、滿洲建築協會、朝鮮建築會、臺灣建築會の四會聯合大會を開催の豫定で目下準備中であります、我が協會よりは片岡會長外十餘名之に参加の筈であります。

5 「建築學研究」の發行

曩きに京都市國大學工學部建築學教室內建築學研究會にて發行されて居りました「建築學研究」を當協會に於て年四回（漸次増刊の豫定）發行することになり、その第一回を本月發行致しました内容は毎號主として下記のものを以て充當する方針であります。

1. 當協會各種委員會の調査報告
1. 當協會々員の學術的研究
1. 建築學研究會々員の學術的研究

追て地方會員及贊助員の方にして御希望の向は實費1部50錢送料4錢でお願ひ致しますから御申込を願ひます。

昭和 8 年 7 月

社 團 日 本 建 築 協 會
法 人

電氣スタンド圖案懸賞募集

新時代に適應した、最も明るく、最も感じの好い電氣スタンドの圖案を募集いたします。奮つて應募あらんことを。

昭和8年6月15日

大阪市北區堂島中2ノ9電氣協會關西支部内

社團法人 照明學會

照明智識普及委員會關西委員會

電話北(35) 536番 456番
580番 620番

振替大阪17077番

1 募集要項

1. 實用を本意とし且つ趣味に富むもの
2. 應募案には使用すべき場所を明記すること
3. 應募案は新規のものたること
4. 圖案には總て色彩を施すこと及び寸法は實物大のこと
5. 應募案には實際に製作し得るやう明細書を添付のこと
6. 當選に關する一切の權利は募集者の所有たること

2 審査

1. 應募案は下記審査員に於て之を審査す

前京都帝國大學教授 工學博士	武田 五一氏
大阪帝國大學教授 京都帝國大學名譽教授 工學博士	青柳 榮司氏
京都帝國大學教授 工學博士	藤井 厚二氏
神戸高等工業學校長	古宇田 實氏
京都高等工藝學校教授	本野 精吾氏
建築學會研 地方委員	石川 純一郎氏
照明智識普及委員會 關西委員會委員長	石川 芳次郎氏
照明學會關西支部長	大戸 武之氏
照明智識普及委員會 關西委員會委員	大島 弘義氏

2. 審査の結果は昭和8年8月15日之を應募者に通知し尙照明學會雜誌に公表す

3. 應募者は審査の結果に對して説明を求め又は異議を申立つることを得ず

3 賞

1. 審査の結果優秀なるものに左の通り賞金或は賞品を呈す

1等	1人	賞金 50圓
2等	2人	賞金25圓宛
3等	3人	賞金10圓宛
等外佳作	若干名	賞品
2. 賞金及賞品は當選通知後10日以内に之を贈呈す

4 應募心得

1. 昭和8年7月31日迄に左記に到着するやう提出のこと
大阪市北區堂島中2丁目9番地
社團法人照明學會
照明智識普及委員會關西委員會
2. 應募案は嚴封の上書留郵便を以てし、封書に應募者の住所氏名を明記し且「スタンド圖案」と朱書のこと
應募圖案並に明細書には住所氏名を記入せざること
3. 落選圖案は希望に依り返還するに付應募の際返送料を同封し置くこと
4. 天災又は不可抗力に基く應募案の滅失毀損等に對しては募集者其責に任ぜざること

エヂソン翁記念碑設計圖案懸賞募集

趣 旨

トーマス・アルバ・エヂソン翁は其の一生を通じて幾千に及ぶ重要な發明を完成し、人類福祉の増進に貢獻したるは今更喟々を要せざる處なり。而して其の發明たるや實に勤勉努力の結晶にして其の偉大なる功績は翁の不屈不撓の努力と共に尊き教訓を吾人に與へたり。

是を以て世界各國民は皆其の恩恵を感謝すると共に翁の精神力に感銘措く能はざる處なり。

今や翁逝いて茲に一年有半。翁の名を不朽ならしむる爲め、翁と因縁淺からざる京都府下八幡の地を卜し記念碑を建設し翁の鴻業を永遠に傳へんこと。

エヂソン翁記念碑設計圖案懸賞募集規程

1. 應募設計要件

- (イ) 建設地ハ京都府綴喜郡八幡町男山八幡神社境内。別圖ニ示ス地點トス
 - (ロ) 記念碑ハ翁ノ偉大ナル功績ト精神力ヲ表現スルニ足ルベキ質實簡素ニシテ雄大ナルモノタルヲ希望ス
 - (ハ) 材料ハ耐火耐久ノモノタルコト
 - (ニ) 總建設費ハ金壹萬圓以内タルコト
 - (ホ) 記念碑ニハ其ノ何レカノ部分ニ下ノ碑文ヲ表スベキコト
- 下 記

「トーマス・アルバ・エヂソン翁記念碑」

英文“To the Memory of Thomas Alba Edison”

(ヘ) 記念碑ノ高サハ隨意トス

2. 所要圖書

- (イ) 平面圖 縮尺 20 分ノ 1
- (ロ) 立面圖 同 上
- (ハ) 斷面圖 同 上
- (ニ) 透視圖
- (ホ) 圖面仕上方法及ビ用紙ハ隨意トス
- (ヘ) 略仕様書又ハ説明ハ圖面中ニ記入スルコト

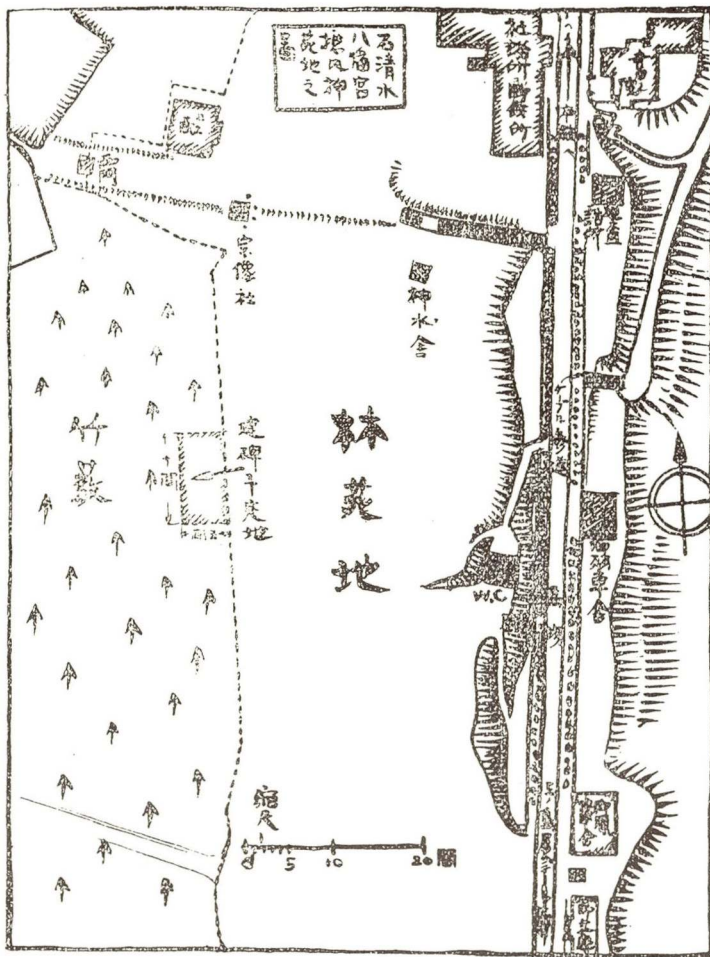
3. 入選者ノ等級並ニ賞金

- | | | |
|-----|------|-----|
| 1 等 | 200圓 | 1 名 |
| 2 等 | 100圓 | 2 名 |
| 3 等 | 30圓 | 4 名 |

4 圖案提出期日 昭和3年8月5日 正午

5. 當選者發表期日 昭和3年8月20日

6. 當選者發表方法 社団法人電氣協會々報昭和8年9月號ニ發表ス



早稲田大學講師

安井武雄氏

8. 各圖面ニハ暗號(文字ニ限ル)ヲ記入スルモノトス。別ニ暗號竝ニ住所氏名職業(勤務先共)ヲ記セル紙片ヲ密封シ、其ノ封書ノ表面ニハ前記暗號ヲ附シタルモノヲ圖面ニ添附スベシ
9. 審査ノ結果ニ對シ説明ヲ求メ、又ハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ズ
10. 應募圖案ノ所有權ハ一切本會ニ歸スルモノトス
11. 應募圖案發送先ハ「大阪市北區堂島中町二丁目九番地 社團法人電氣協會

7. 審査委員

エヂソン翁記念碑建設會實行委員長
大阪帝國大學教授 工學博士

青柳榮司氏

工學博士 武田五一氏

神戸高等工業學校長

古宇田實氏

京都高等工藝學校教授

本野精吾氏

關西支部内、エヂソン翁記念碑建設會實行委員會事務所」トス

12. 質問ハ同上事務所宛ニ照會ノコト
13. 當選シタル圖案ト雖モ實施ノ場合ニ於テハ取捨變更スルコトアルモノトス
14. 應募圖案ノ保管ニ關シ損害ヲ生ズルコトアルモ本會ハ其ノ責ニ任ゼザルモノトス

昭和 8 年 7 月

エヂソン翁記念碑建設會實行委員會

大阪市の「シビック・センター」計畫理想案懸賞募集

趣 旨

大阪市は我國商工業の中心として最近その發展特に著しきものあり諸般の施設亦漸く大都市の面目を備へつゝありと雖も都市構築の上より見れば遺憾の點尠ならず殊に都市の中心をなすべき適當なる「シビック・センター」なく且天恵の河岸の利用せらるゝこと亦甚だ少きは世人周知の事實なり。輒近當局に於ても大阪驛改築に伴ひ大阪驛附近一部の整理を實施せられつゝあるも近代的大都市各般の要求に應ぜんが爲には更に進んでより廣汎に亘る大計畫を樹立する必要あり。

本協會は此趣旨に基き左の區域を指定し大阪市の「シビック・センター」の理想的計畫案を募集し以て市民の注意を喚起せんとす。

大阪市ノ「シビック・センター」計畫理想案懸賞募集規程

1, 指定地概要

御堂筋、南北線ノ二大街路ニ挾マレタル地區ニシテ大阪驛以南土佐堀川南岸ヲ含ム樞要ノ地帶(附圖参照)

2, 應募設計要件 (建築と社會六月號ニ發表ノ「中之島」ヲ「ソノ他」ニ訂正)

驛前廣場ハ諸般ノ交通ヲ圓滑ナラシムベク留意シ驛前ニハ適切ナル建築物ヲ配置シソノ他ニハ將來實現セラルベキ想定都廳舍ヲ中心トセル公共諸建築物並ニ遊歩場、廣場等ノ自由空地及道路ヲ配スベシ。

3, 所要圖書

- (イ) 主要建築物、道路、廣場等ノ配置圖 縮尺 1000分ノ1
- (ロ) 鳥 瞰 圖
- (ハ) 説 明 書

4, 入選者ノ等級並ニ賞與

- 1 等 (金 牌) 副賞 300圓 1名
- 2 等 (銀 牌) 副賞 100圓 1名
- 3 等 (青銅牌) 副賞 50圓 1名
- 佳作 (褒 狀) 若干名

5, 締切期日

昭和8年9月30日正午

6, 當選者發表

審査ノ結果ハ雜誌「建築と社會」昭和8年11月號ニ發表ス

7, 審 査 員

日本建築協會副會長	池田 實氏
日本建築協會會長工學博士	片岡 安氏
阪神急行電鐵株式會社社長	小林 一三氏
工 學 博 士	武田 五一氏
京都帝國大學 教 授	武居高四郎氏
工 學 博 士	直木倫太郎氏
阪神電氣鐵道株式會社社長	堀 啓次郎氏
大 阪 鐵 道 局 長	前田 穰氏
日本建築協會 監 事	松室 重光氏

(五十音順)

8, 應募者心得

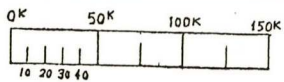
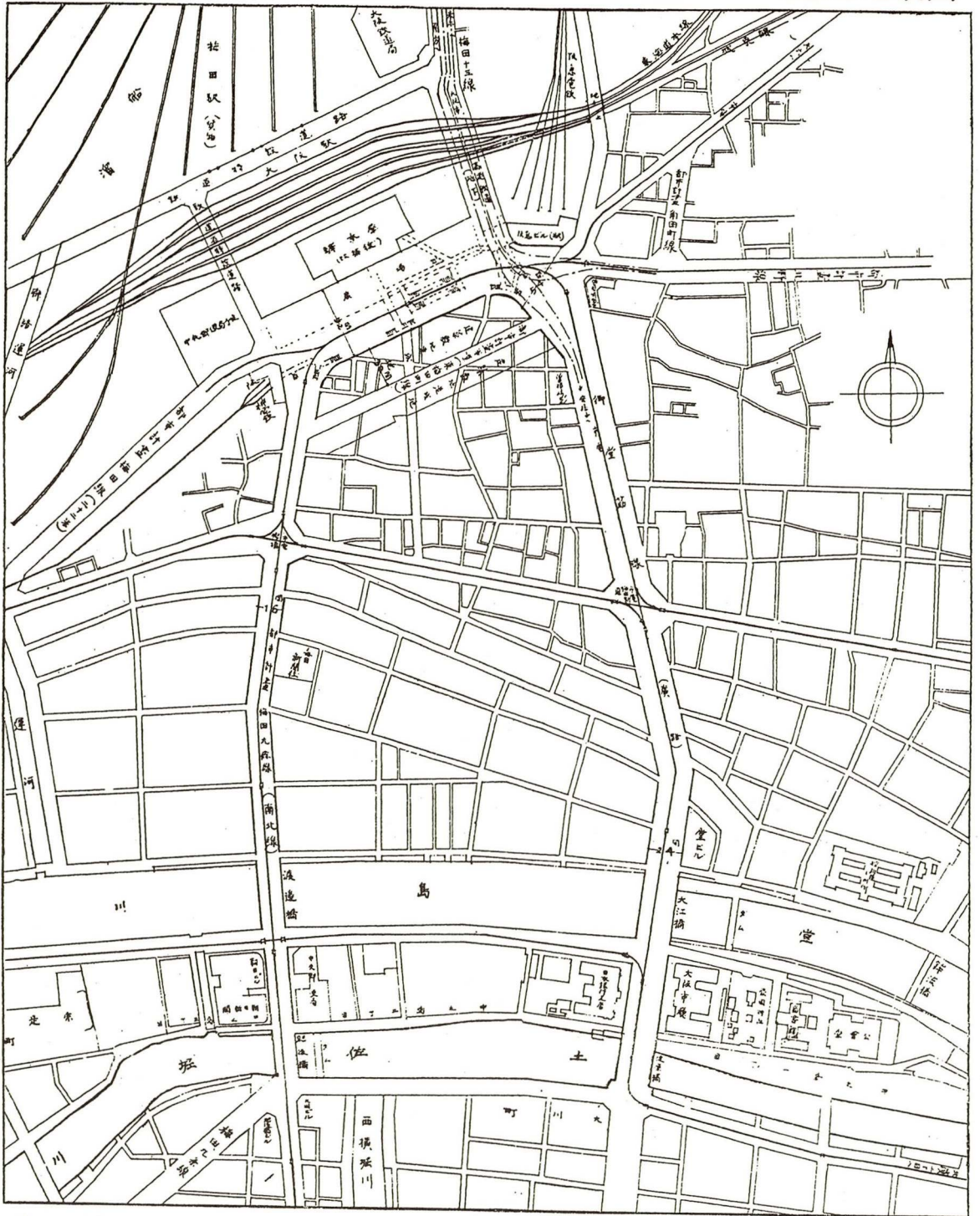
- (イ) 配置圖、鳥瞰圖共用紙仕上等凡テ應募者ノ自由トス
説明書ハ半紙大野紙ヲ用ヒ計畫ノ概要ヲ簡單ニ説明スベシ。
- (ロ) 各圖面ニハ暗號(文字ニ限ル)ヲ附シ別ニ暗號並ニ住所氏名職業(勤務先共)ヲ記セル紙片ヲ密封シ、封書ノ表面ニ前記暗號ヲ記シタルモノヲ添附スベシ。
- (ハ) 審査ノ結果ニ對シ説明ヲ求メ、又ハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ズ。
- (ニ) 當選圖案ニ關スル一切ノ權利ハ本協會ニ歸屬スルモノトス。
- (ホ) 應募圖案發送先
大阪市北區中之島三ノ三朝日ビル四〇五
日本建築協會内「シビック・センター」
計畫案懸賞係宛

昭和 8 年 7 月

社 團
法 人

日 本 建 築 協 會

大阪市「シビックセンター」想定地域圖



建 築 と 社 會

第 16 輯 第 7 號 昭 和 8 年 7 月 發 行

新 建 築 集

目 次

株式會社伊藤萬商店	(1)
大阪瓦斯ビルディング	(7)
岡崎銀行	(16)
大阪市九條電燈營業所	(18)
株式會社大丸	(20)
第一銀行船場支店	(25)
三菱信託株式會社大阪支店	(26)
滋賀農工銀行	(28)
加能合同銀行	(29)
御影公會堂	(30)
國民會館	(32)
日本赤十字社大阪支部病院中病棟	(34)
日本赤十字社大阪支部病院看護婦宿舍	(36)
大阪パシオン	(38)
自泉會館	(40)
神戸市中央卸賣市場	(42)
住宅博覽會を見て	松 室 重 光 (45)
銲接及び切斷用語	(51)
建築學會主催第七回建築展覽會規定	(56)
會 報	(55)



外觀（本町と御堂筋との角）

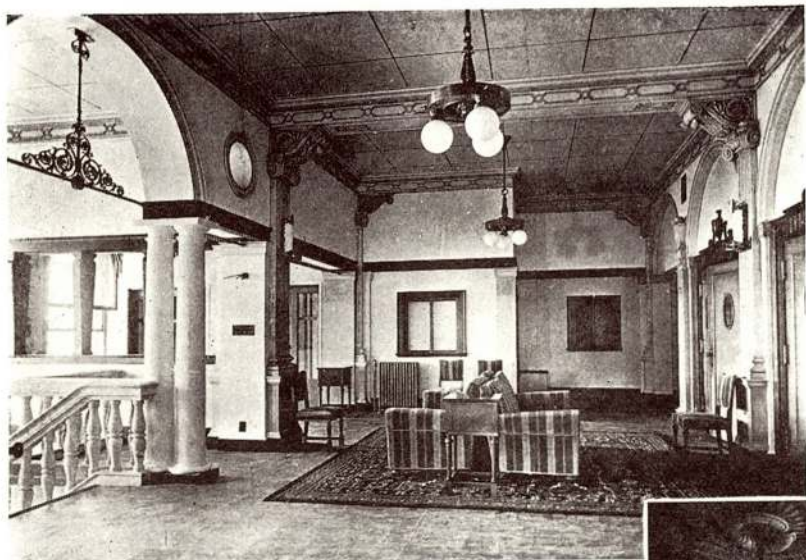
位置 大阪市東區本町四丁目御堂筋角

敷地面積 415.64、建坪 328.57、地上 7 階及塔、地下 2 階、總延坪 3,136.91

構造は鐵骨鐵筋コンクリート造の耐震防火的建築にして外觀は石材、テラクター及タイル張の近世復興式に據る。

内部天井及壁は一般に白色 plaster 仕上とし本町及御堂筋の街路に接したる天井面は全部防音效果の爲富士テックスを張り壁面の腰高 5 尺は「モルタイト」壁とし床面は或る一部を除く外全部「オーク」及「チーク」材のフラツリングブロック張とせり。

大講演室、重役室等主要なる部屋の造作材は全部「チーク」材を使用す。



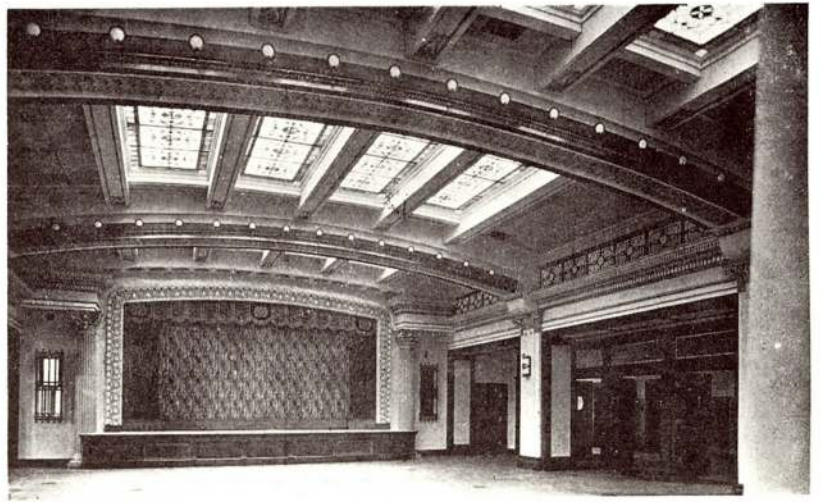
↑ 7 階大講演場前ホール



↑ 1 階入口ホール客階段

← 正面玄関





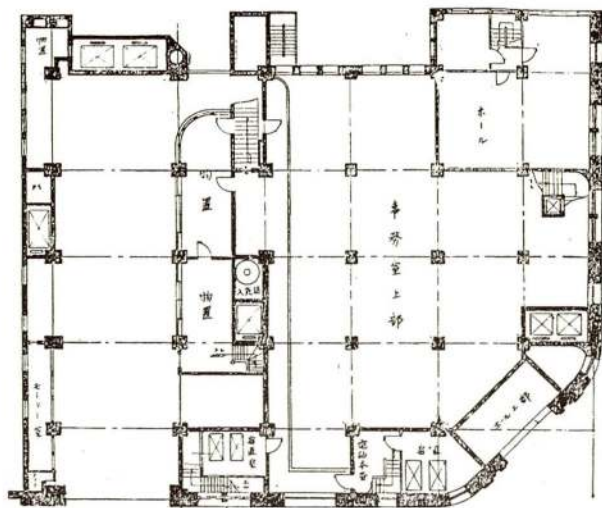
↑ 7 階 大 講 演 場



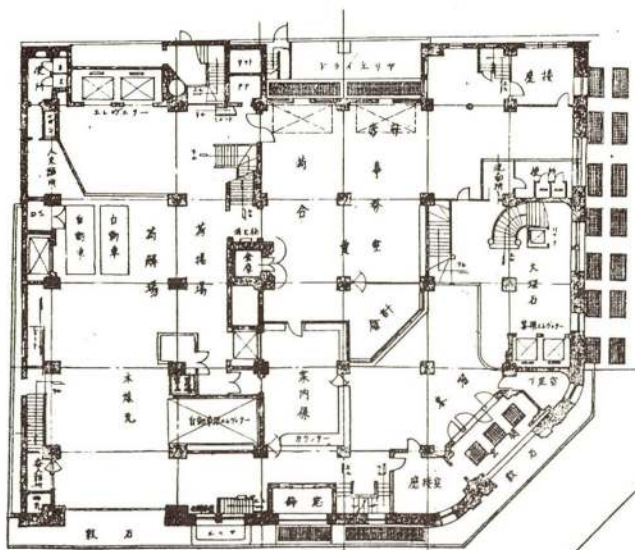
↑ 2 階 社 長 室

6 階 客 食 堂 ➡

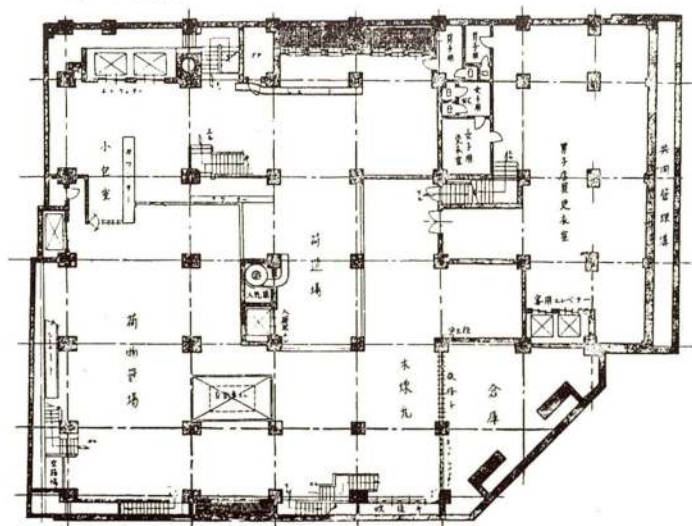




中2階平面図



1階平面図



地階1階平面図

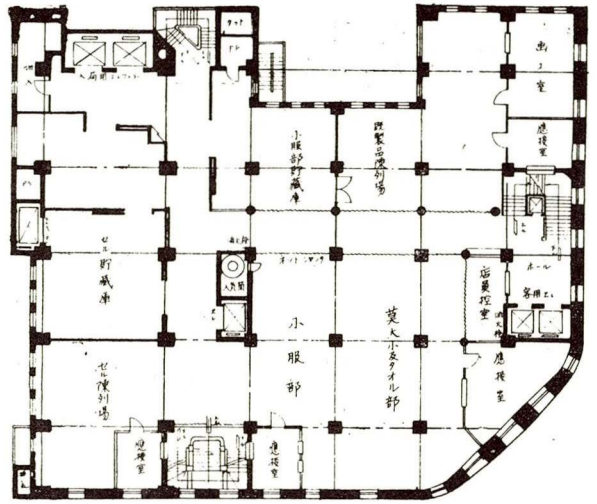
本建物は全部商店用にして地下2階は各種設備用機械室、地下1階は大荷造場及店員更衣室、第1階は入口ホール接客案内、営業事務室、勘定場及一般荷受場、第2階は輸出部営業場、社長室、重役室、会議室及帳庫、第3階第4階第5階何れも一般賣場及貯蔵庫、第6階は厨房、店員食堂、客食堂及休憩場、第7階は大講演場、新柄大陳列会場及和風客室とす。基礎工事は本邦建築最初の試みとしてニューマチックケーソンに據り深50尺の處から築造した。

外壁の本町及御堂筋街路に面する窓は硝子をスチールサツシュに入れ全部二重の建具を嵌込み其中央約5寸の間隙にST式畳上げ日除を仕込み街路の騒音を効果的に遮断せんとした。

荷受場は特に載荷自動車を自由に往復出入せしむる爲建物の東端に幅4間半即ち安土町の町幅と同様な通路を設け特に柱間を擴大した。

7階には300人を容るゝ大講演會場と幅5間半長さ11間の廣大なる新柄大陳列会場とを設けた。

建築附帯設備として特異なるものは各階賣場間に傳票を交互に送達せしむべくニューマチック、キャリアーを設備し、店内電話は全部自動交換設備とし尙各階に擴聲器を設け用件



4 階 平 面 図

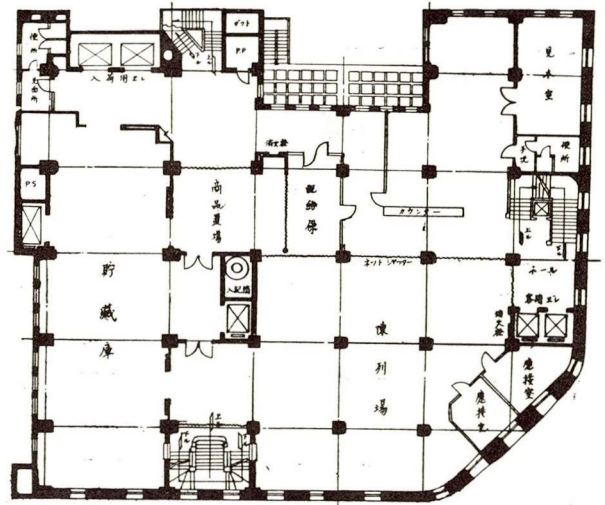
を一般に傳達せしめ得る事とし地下1階荷揚場と1階荷物出入口との間に特に幅10尺、長20尺、安全荷重5噸なる大昇降機を設備し發送荷物を積載のまゝ昇降せしめ得る様にした。

地下1階に大荷造場を設けたるを以て此處の換氣を充分ならしむるは勿論各階共全部を機械的に換氣し得る様設備せり。

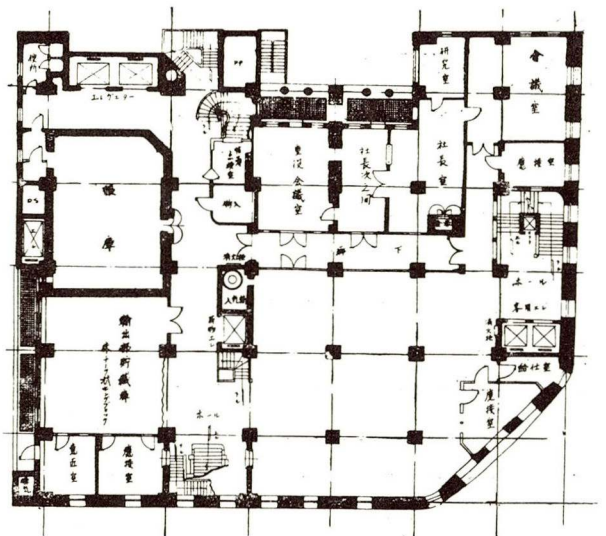
尙右換氣設備は別に7階大講演會場にも設備して之を以て夏期冷房、冬期煖房をなし得る設備をなせり。

本工事に要したる主要材料及工事手間は次の様である。

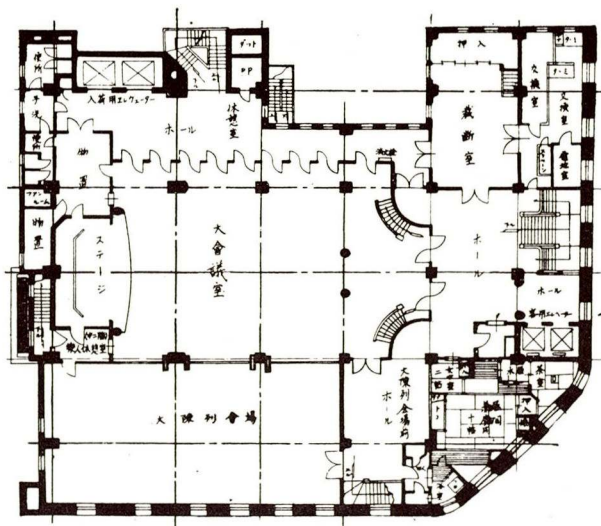
鐵 骨 材 料	1,500 噸
鐵 筋 材	1,100 噸
コンクリート	1,650 立坪
セメント	24,000 樽
外部タイル	1,250 坪
内部タイル	1,200 坪
テラコッタ	330 坪
大理石	10,000 平方尺
眞鍮金物材料	2,000 貫
スチールサッシ	13,500 平方尺
スチールドア	3,800 平方尺
スチールシャッター	13,000 平方尺
ネットシャッター	3,200 平方尺
従事職工現場延人員	約 65,500 人



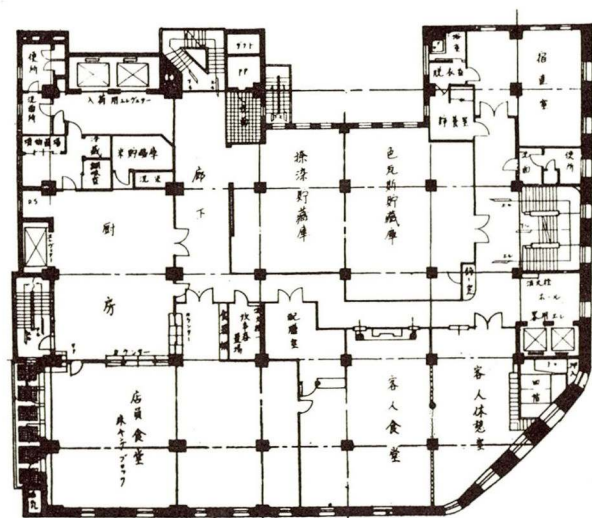
3 階 平 面 図



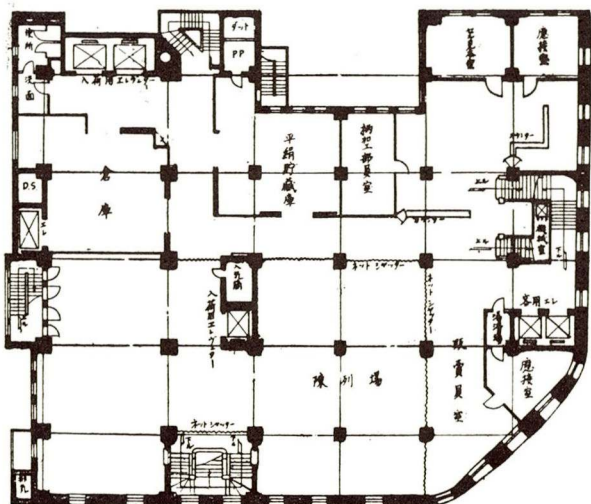
2 階 平 面 図



7階平面圖



6階平面圖



5階平面圖



↑ 外観（御堂筋と平野町筋との角）

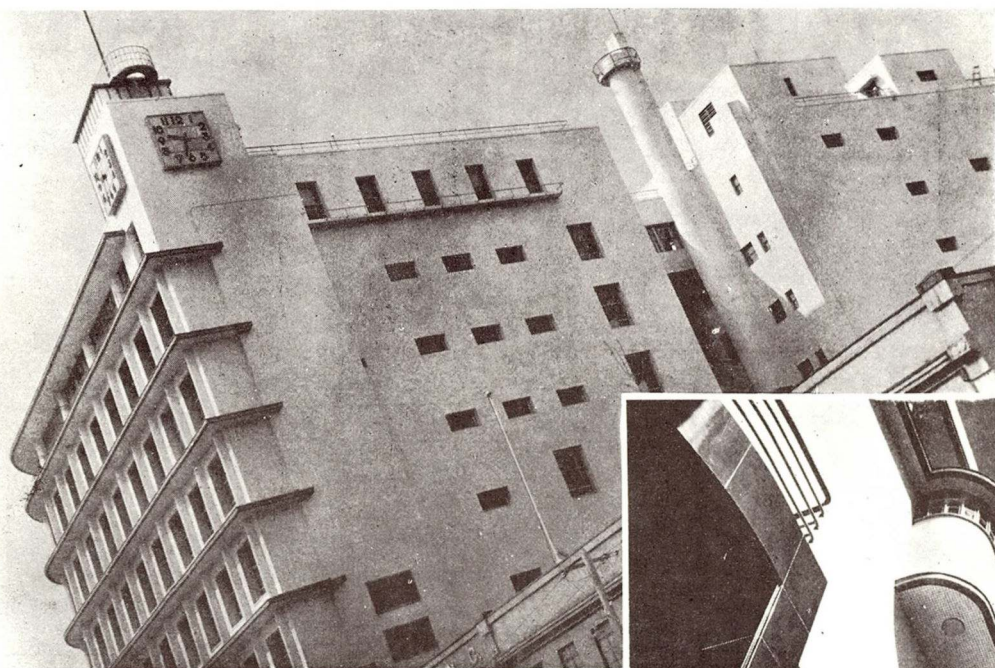
白哲の巨人の姿が御堂筋に現はれた。大阪瓦斯ビルディングである、本年3月落成。

場所、東區平野町5丁目、敷地面積2,467平方メートル（746坪）、建築面積2,065平方メートル（625坪）、延18,423平方メートル（5,573坪）

地下2階地上8階、軒高100尺、塔屋高120尺である。主體鐵骨鐵筋混凝土剛架構で、床版及主要壁體は鐵筋混凝土造、一部間仕切りには鐵筋ラスを使用してゐる。

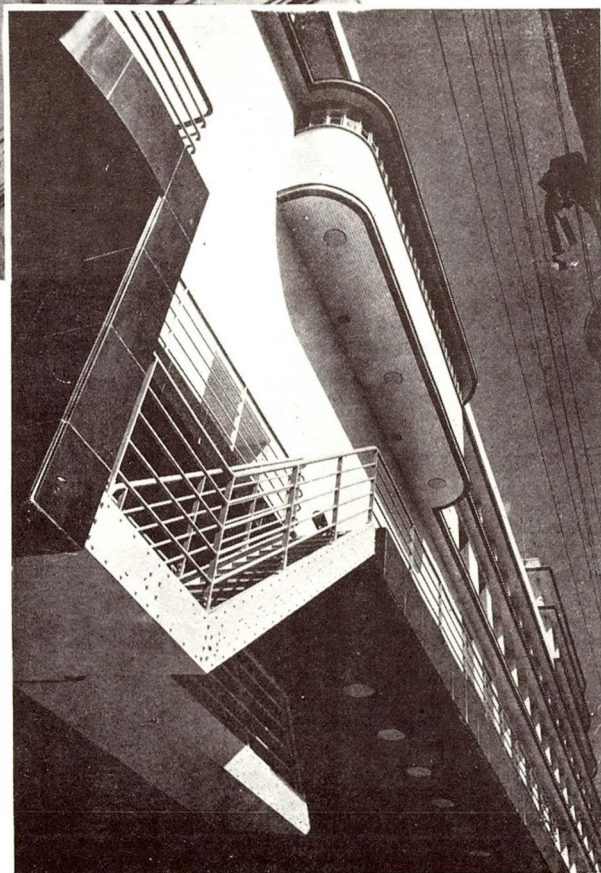
外装は2階までは勿來石に稻田石を交へて黒の調子を強め、上部全面の磁器タイル貼りの白色に對照をなさしめてゐる、軒先きには鼠色の磁器タイルを張つて水平線を強調してある。

設計者は“使用目的及構造に基ける自由様式”と云つてゐられる、實に内部、外観と共に簡素明快新時代の感覺に富む、虚飾から實理へ、頽廢から新興への意氣高い作品である。

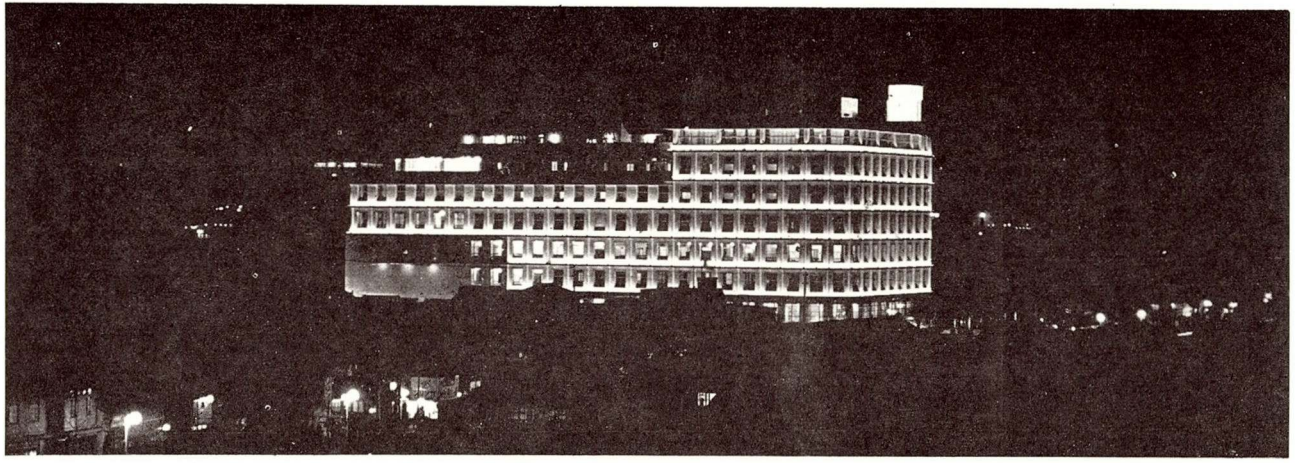


↑ 御堂筋稍北方より見返へる

平野町筋の非常用階段見出 ➡



總て巧まざる所に眞剣さがある、建物の裏側に驚くべき美しさを見出すことが往々ある。右圖は平野町筋の避難梯子せ見上げた寫眞である。新巨船を見る様で、氣脈の通ずる所があるのは當然のこととも考へられる



← ↑ 夜 景



夜の照明に意を向けてあるのはまた此種の建物として當然であらう、而も成功した一例として他に比類がない。白聖城は確に一偉観である、廣告的價值にも富むといひ得やう。

白日の下に輝くときとそれ自體が白く夜の闇に浮ぶときとを上に並べて掲げた。遙か向ふに朝日ビルも見える。上の二つは夜景の寫眞である、近頃よくあるネガチープの印畫の様である、構成美には一層著しく目を注ぐ、直線と曲線、黒と白、水平線と垂直線、どこまでもコントラスト一方向で進む。

劃一的で、單純で、幾分浅い軽い味。此種の形式が世にあかれて次に何等か異つた形式のものが現はれるまでこの建物はその王座の位から下りないであらう。

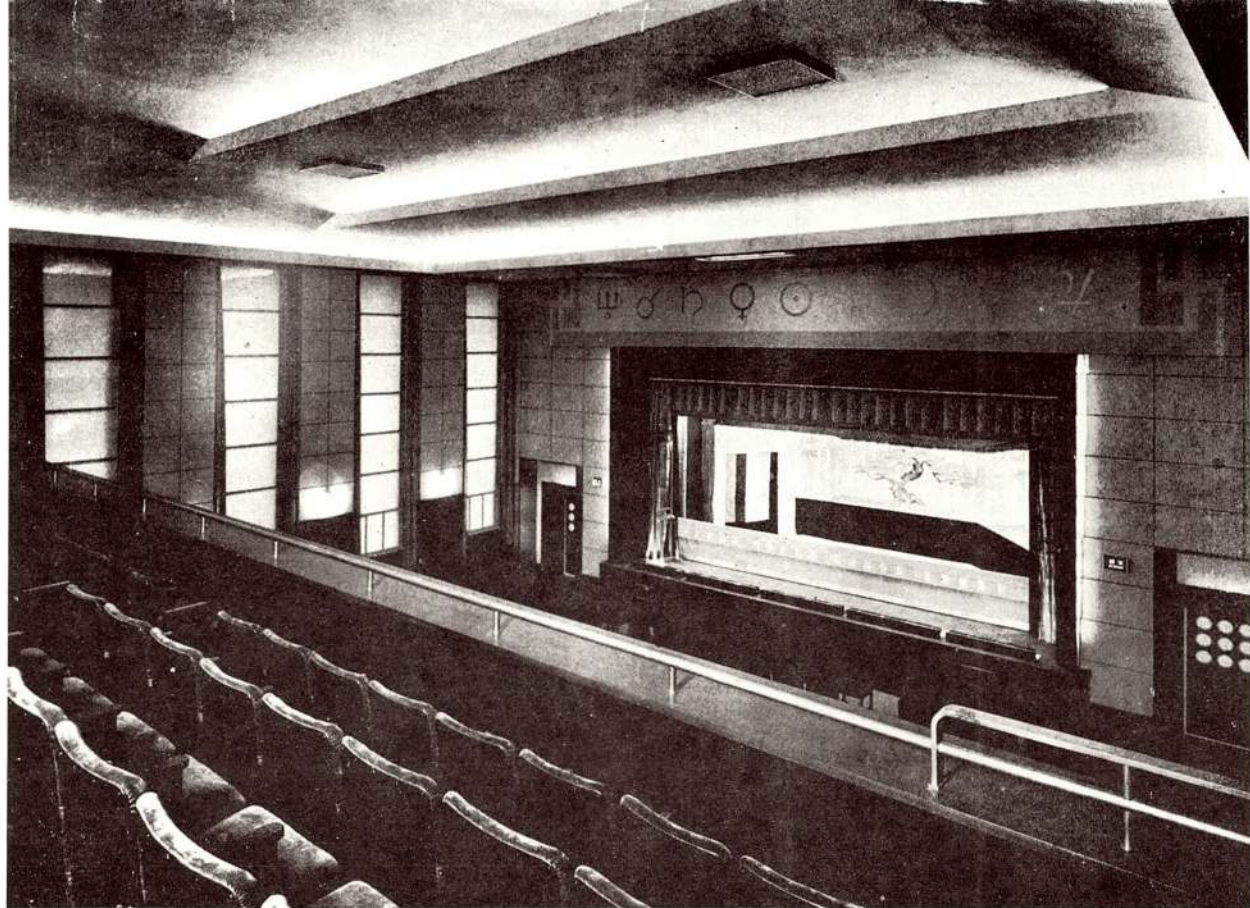


← 陳列室主階段

地下室陳列室から第1階2階の陳列室を連ねる主要階段である、扇形の平面と3階をつらぬく四つの大窓に上り行く手欄が合して一のフィチャーを構成してゐる。

↓ 3階事務室





↑ 大講演場

↓ 4階会議室



大講演場

床面積 120坪、収容人数 500
此に附屬して休憩室、映寫
室、出演者控室及バルコニ
ーがある。窓、出入口は二
重硝子として外部の騒音を
防ぎ、内部の仕上について
も音響効果の完全を期せら
れてある。照明はすべて間
接である、室内空氣調整も
特に専用機關室が設けられ
る、2階より直接外部に非
常階段が設けてある。

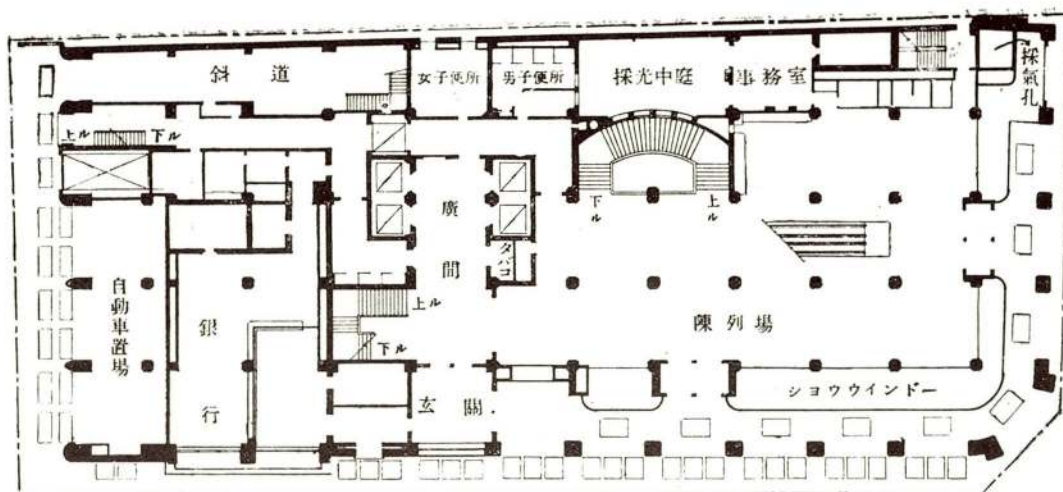


← 廣間階段

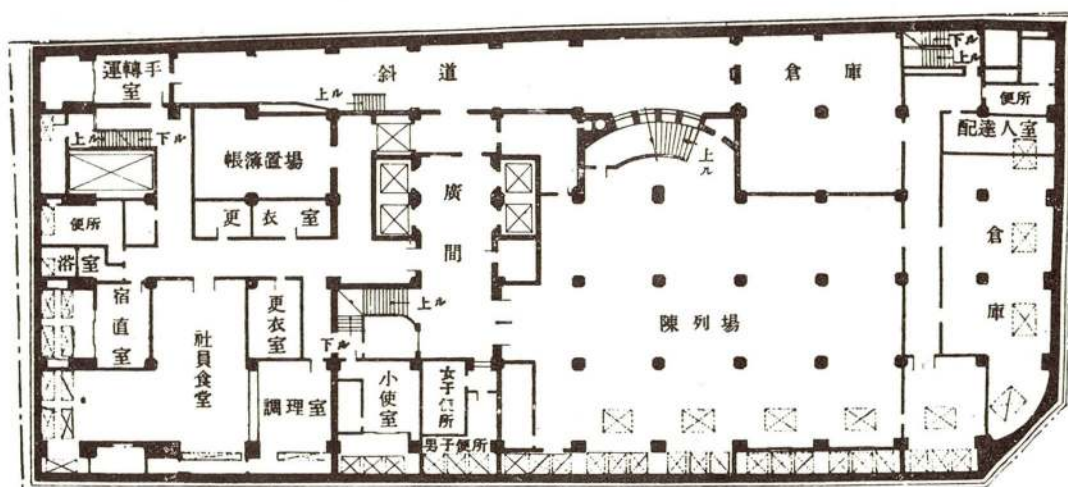
廣間に面する階段で
壁も床も全部トラバ
ルチン貼りである。

↓ 8階食堂

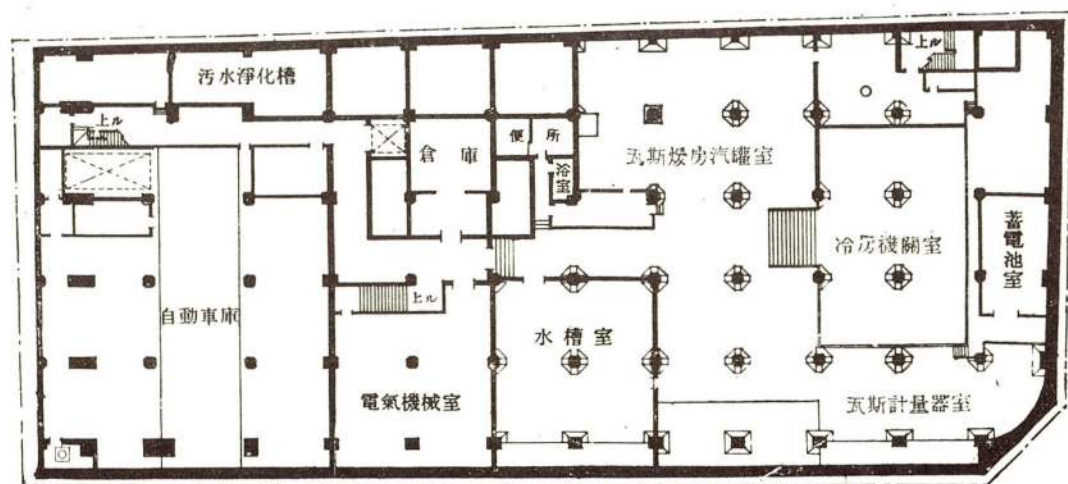




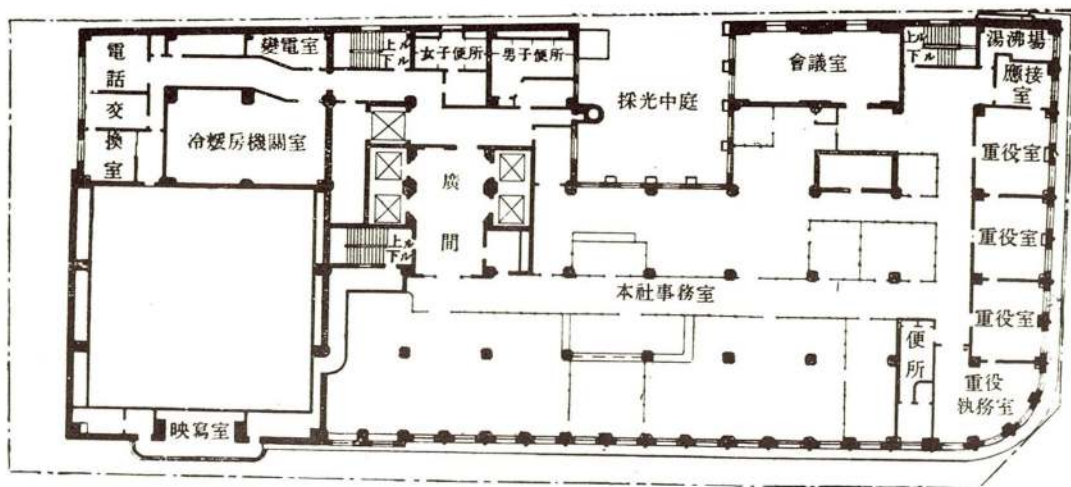
1 階 平面 圖



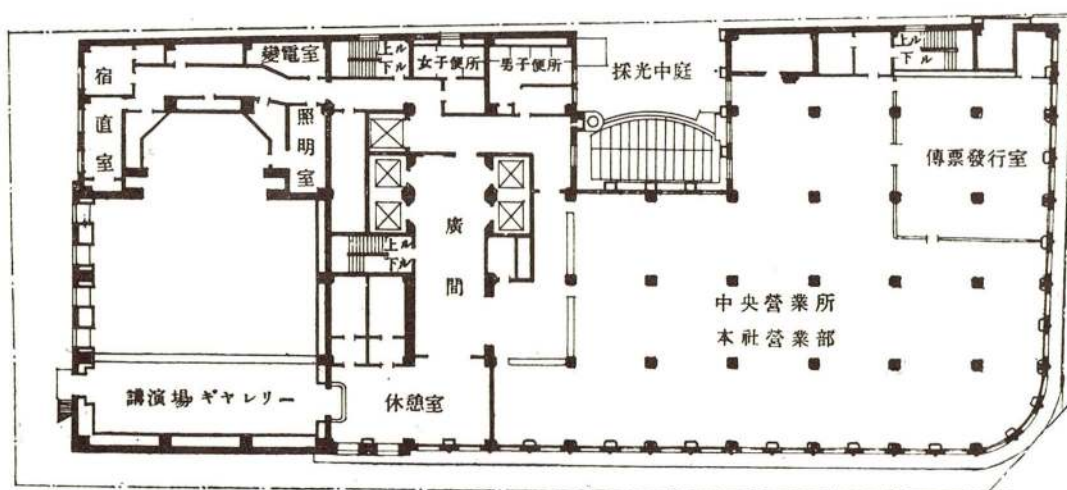
地 階 1 階 平面 圖



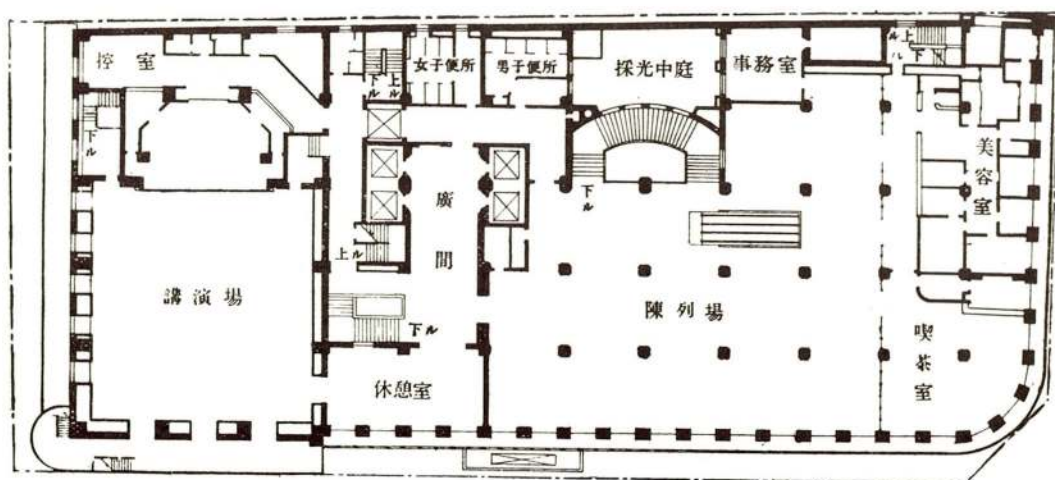
地 階 2 階 平面 圖



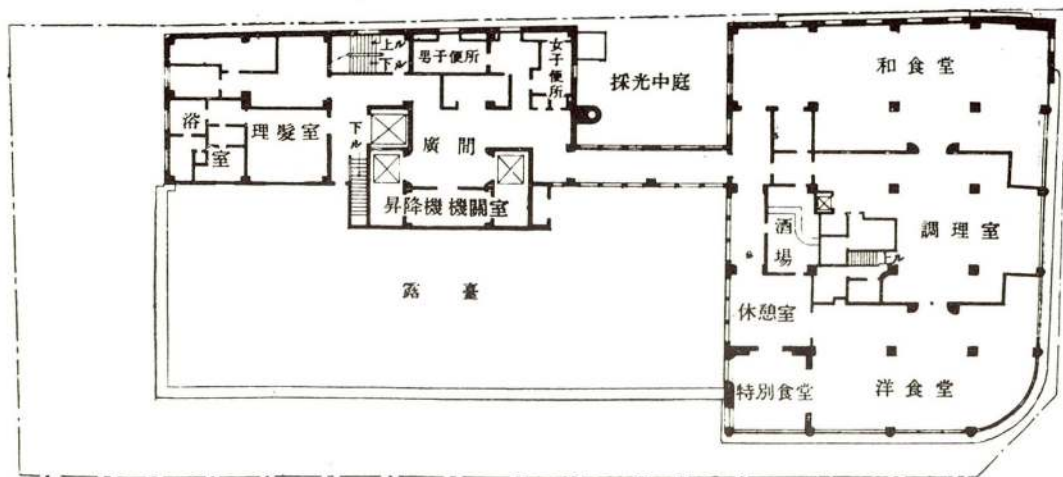
4階平面圖



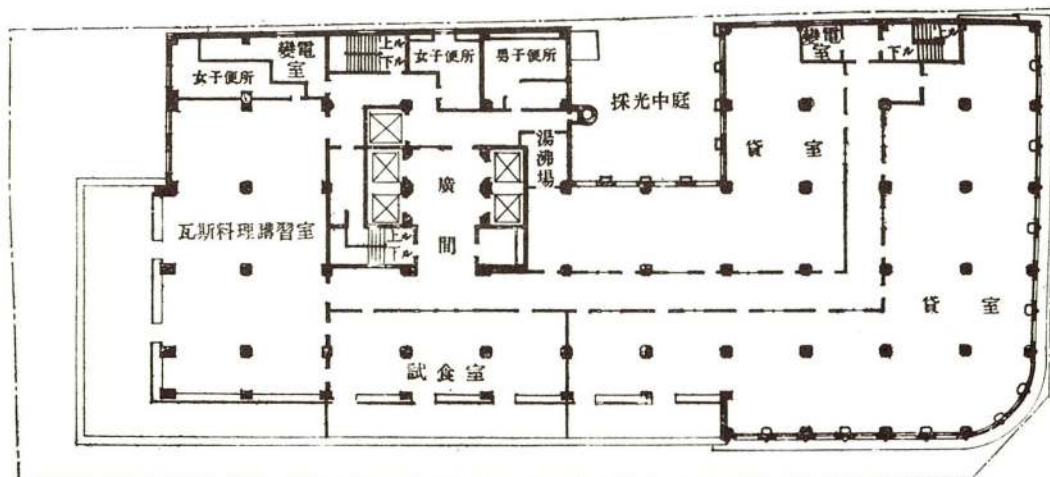
3階平面圖



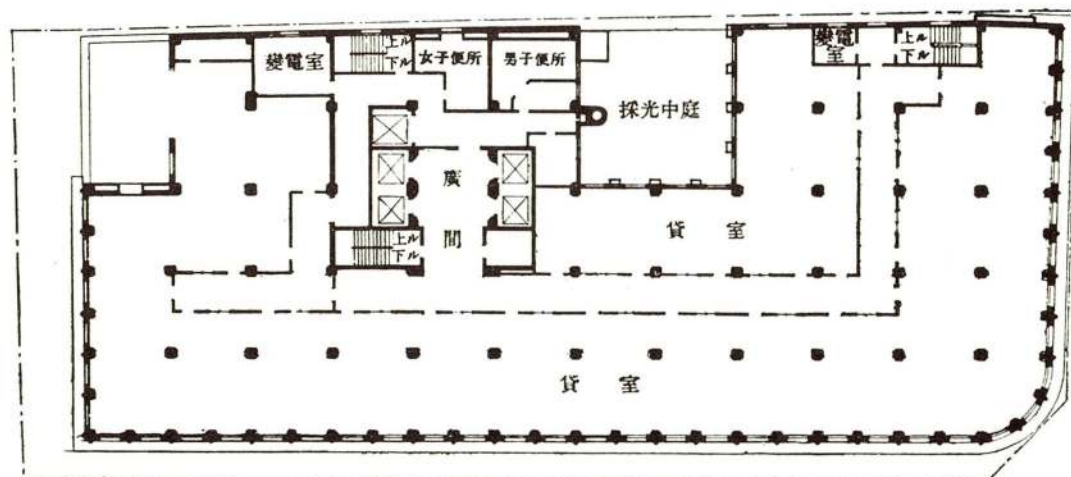
2階平面圖



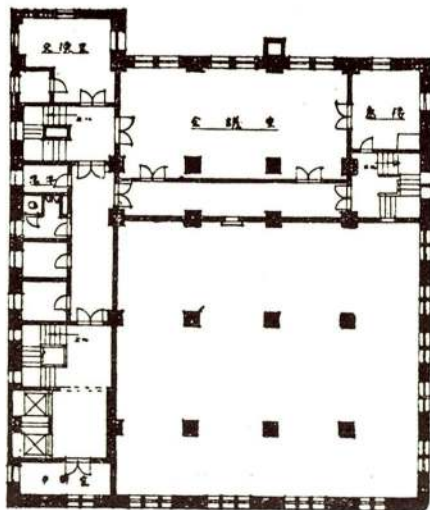
8 階 平 面 圖



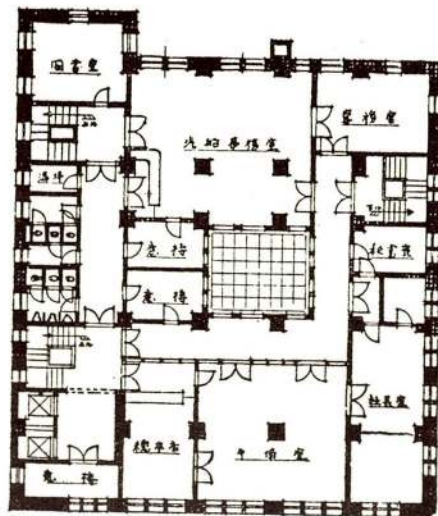
7 階 平 面 圖



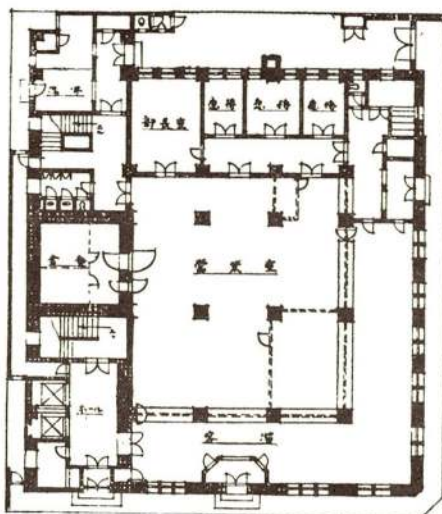
5・6 階 平 面 圖



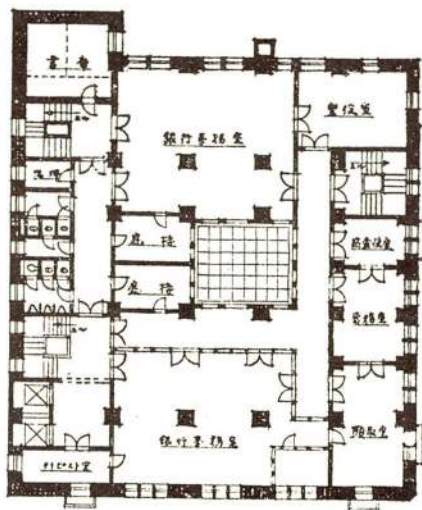
2階平面図



4階平面図



1階平面図



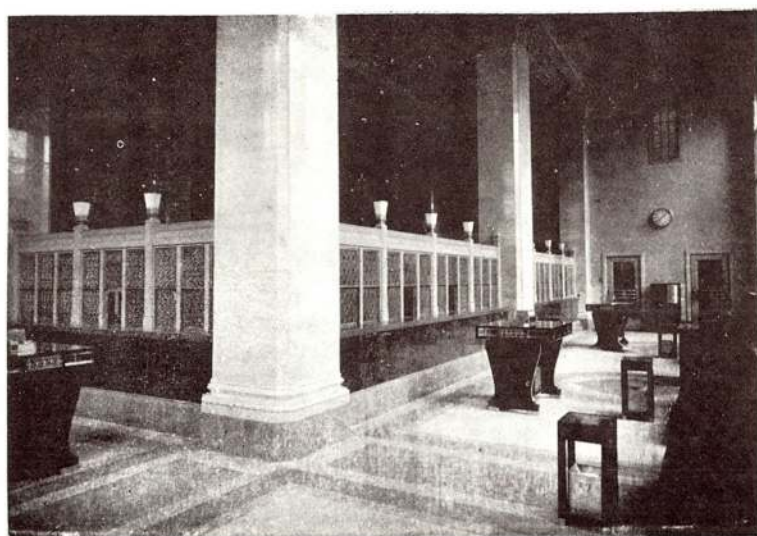
3階平面図

神戸浪花町56番地、建坪 250、総延坪 1097、高バラベ
ット上まで 50.5 尺、鉄筋混凝土造 4 階建
外部腰花崗岩上部碎石入擬石貼、玄関床花崗石敷、壁
琉球産大理石張、銀行營業室客溜床テラゾー仕上、其
他リノリウム敷、柱及營業豪腰大理石



↑ 外 観

↓ 営 業 室





↑ 外 観

↓ 正 面 入 口

位 置 大阪市港区九條

工 程 昭和6年8月起工昭和7年10月竣工

建築面積 1,200 平方米 (363 坪)

總延面積 4,833 平方米 (1,452 坪)

鐵筋混凝土造 4 階建

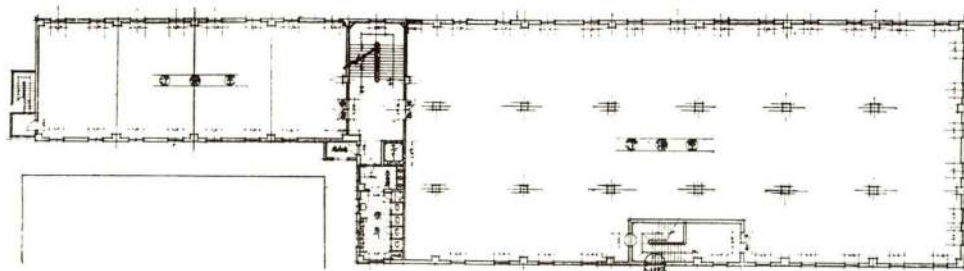
外部仕上 腰積 1 階窓下端までは徳龍石を使用し
上部は釉薬掛「スクラッチ・タイル」張、正面入
口庇及「バラベツト」上端瓦形は「テラコッタ」其
他の蛇腹及彫刻類は「カスト・ストーン」を使用
す

内部仕上

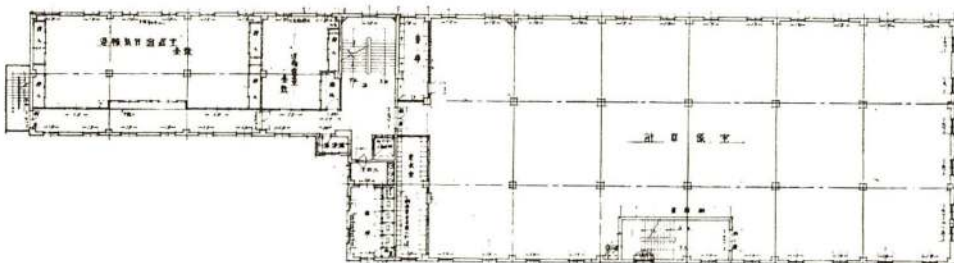
床 1 階營業所及出張所の客溜床は「テラゾオ」
仕上各階段及躍場共タイル張、廣間は人造石
研出し、陸屋根は「クリンカー・タイル」張、其
他各階床は「フロアリング・ブロック」張とす
壁及天井 1 階營業所及出張所は腰石垣「タイル」
張「カウンター」は大理石張、上部壁及天井
は「プラスター」水性「ペンキ」塗仕上、其他の
各室は腰「モルタル」の上「ペンキ」塗、上部壁
及天井は「プラスター」仕上とす

窓及入口 外部窓及出入口は總て鐵製にして内
部階段室其他防火上必要な個所以外は木製
扉とす、1 階街路側に面する窓には總て鑄鐵
製金粉ボカシ仕上の面格子を附し陳列窓及南
側隣地に面する窓には「シャッター」を附す
扉及陳列窓硝子は「ブレイト・グラス」、窓硝子
は主として「ブレイト・ワイヤ・グラス」を使用
す

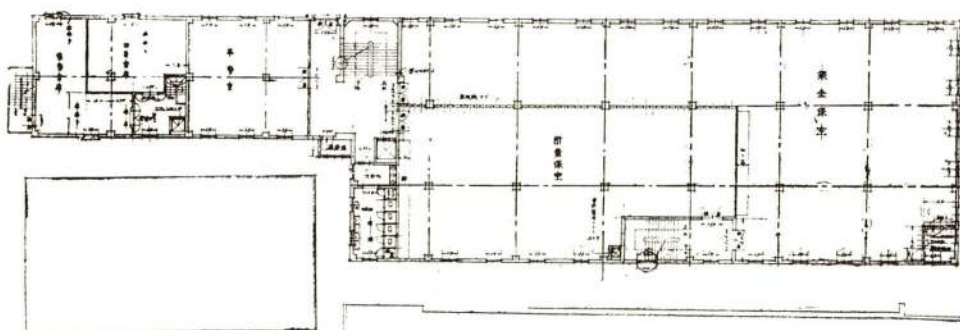




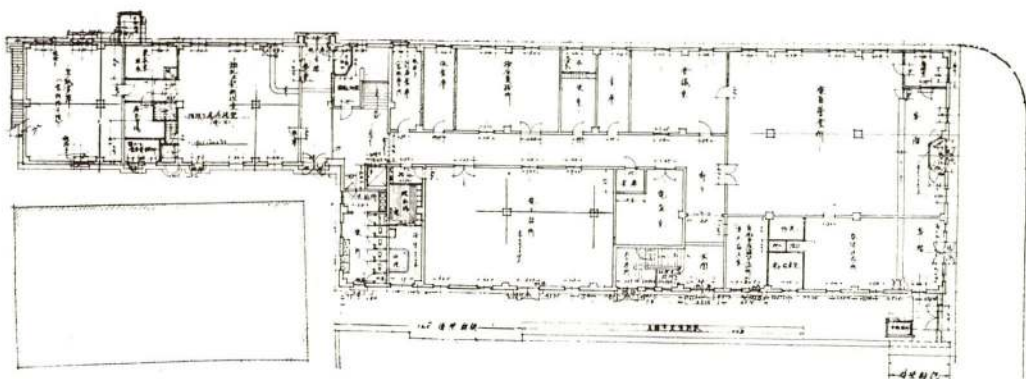
4階平面圖



3階平面圖



2階平面圖



1階平面圖



↑ 大丸御堂筋の外観

敷地坪数 1,690、建坪 1,350、延坪 1,170、階数地下 3階
地上 8 階中 2 階、塔屋 3 階付、軒高バラベツト上端ま
で 102 尺、塔屋 122.7 尺

鉄骨鉄筋混凝土造、外部 1 階より 3 階窓下まで花崗石
貼り、7 階、バラベツト及塔屋テラコッタ、其他スク
ラツチ・タイル張、内部壁面は主としてプラスター塗
及タイル張、特殊な室はチーク材腰羽目、其他大理石
を多量に使用してある。堂々たる巨姿は確かに南大阪
繁華街の一偉観である。各種附帶設備は各種電気電話
に關するもの、完全を期せられてある特に余館に施さ
れたる空氣調整は誇るに足る。

↓ 1 階天井の一部





↓ 地下2階階段廻り



外貌構成の主要な役割をつとめてゐる塔屋の詳細である、夜は特殊の照明法で美しい。北からも南からもダイヤモンドの様に輝く塔を道行く人々は眺めて居る、下の圖は地下階の賣場から地下第2階の賣場にする階段で天井の切子模様が目をはく。



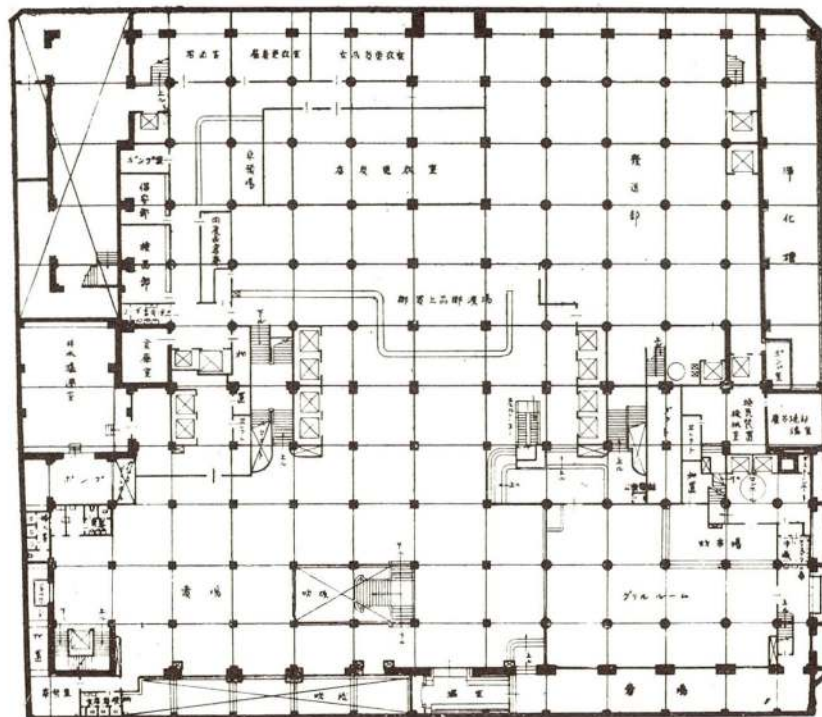
↑ 7 階洋食堂

7 階の食堂、南北に和洋の兩種に別け、室の裝飾も和洋に別けてある、本建築物中の豪華版の一つである。中央の圖はエレベーター前の飾りである、大理石を潤澤に使用し間接照明の光に鮮に映じる、各階意匠を異にするがインデケーターの大きなのが特に目立つ。

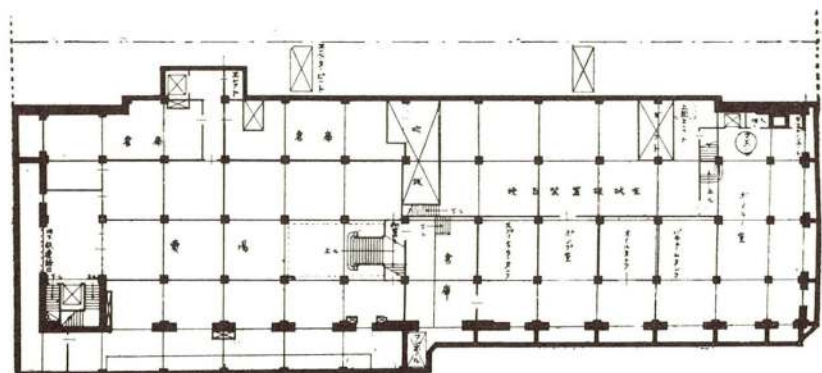
↓ 7 階和食堂



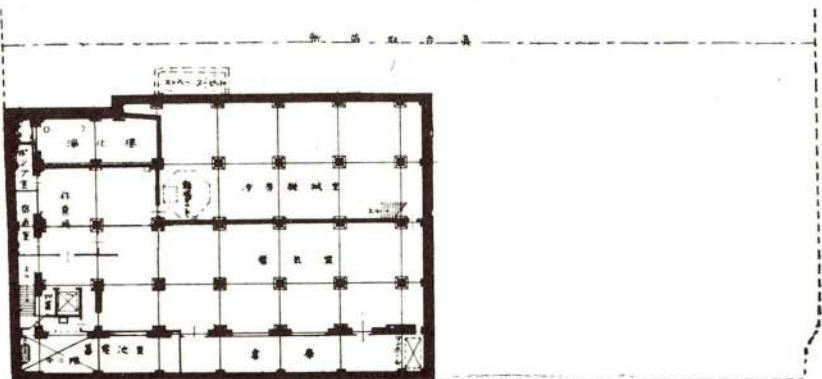
↑ 昇降機前



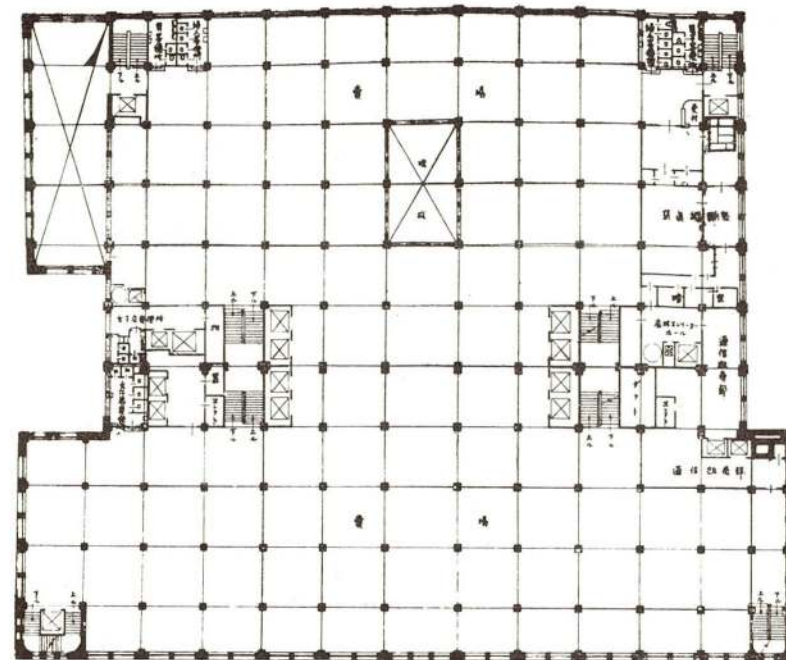
地階1階平面圖



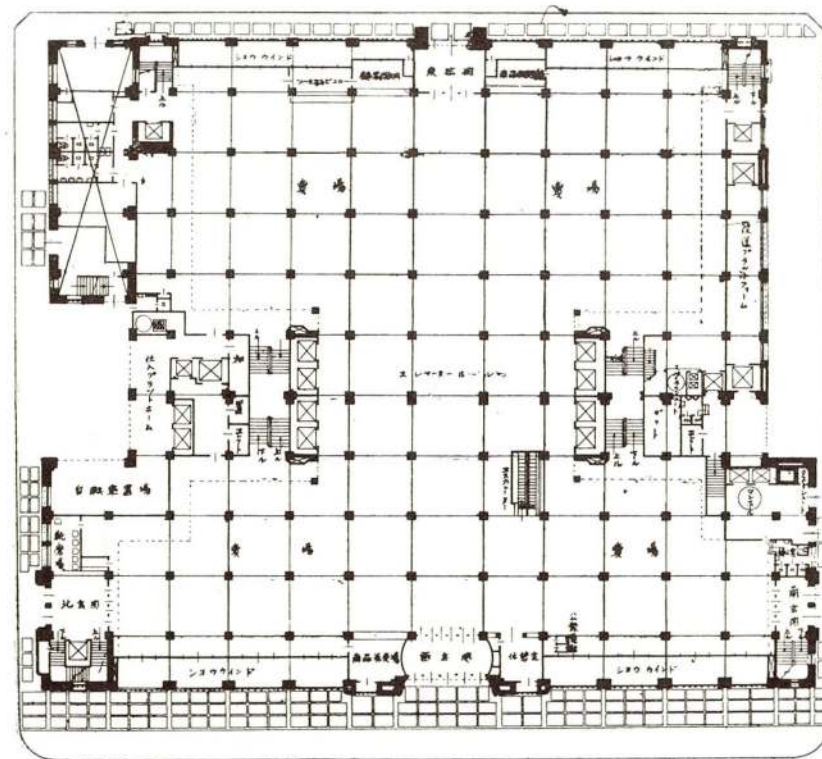
地階2階平面圖



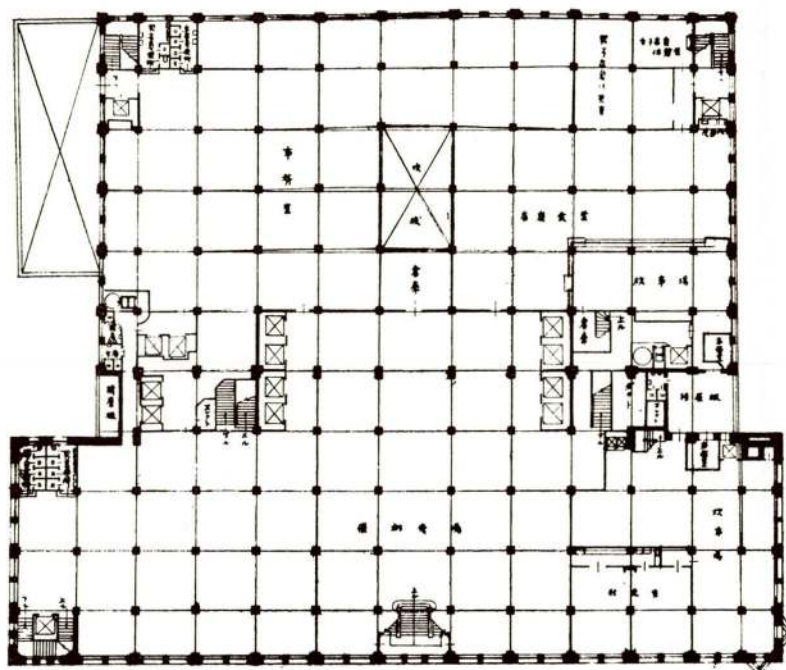
地階3階平面圖



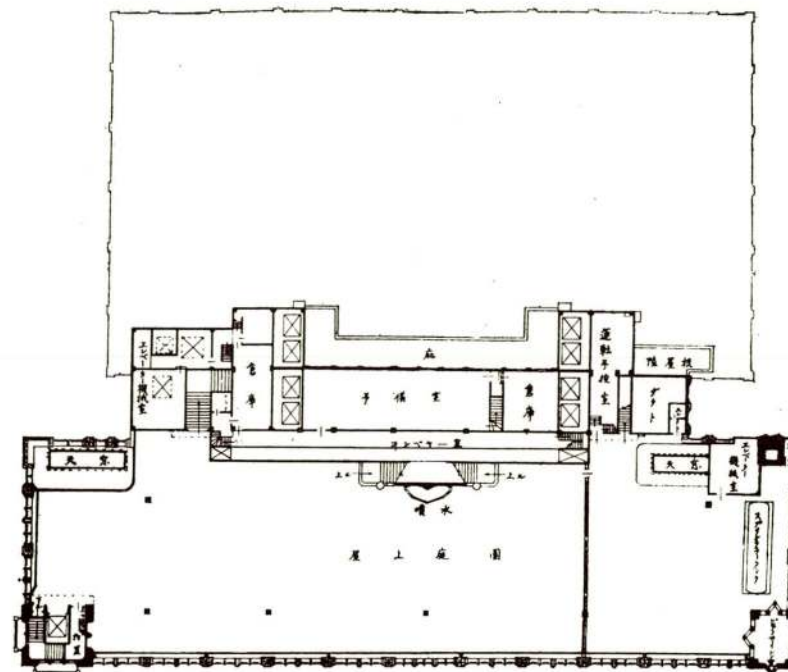
4階平面圖



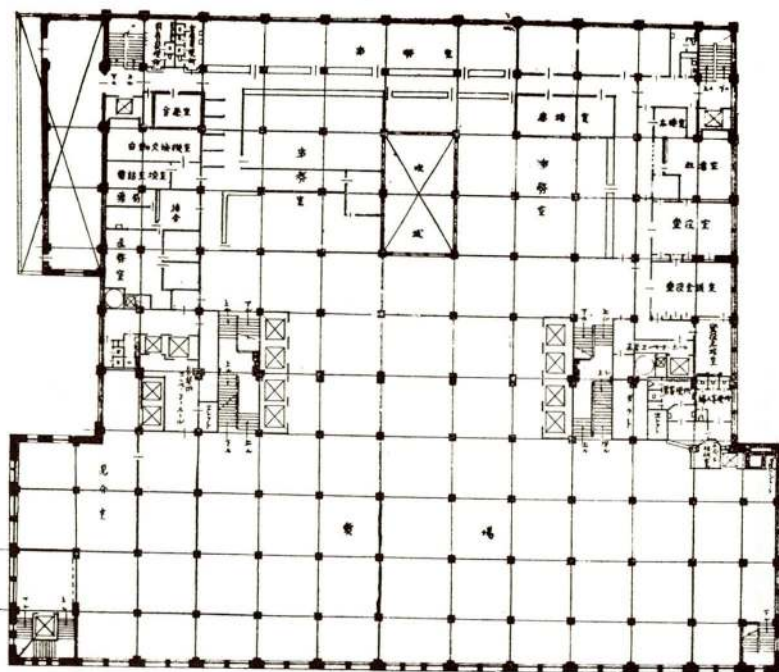
1階平面圖



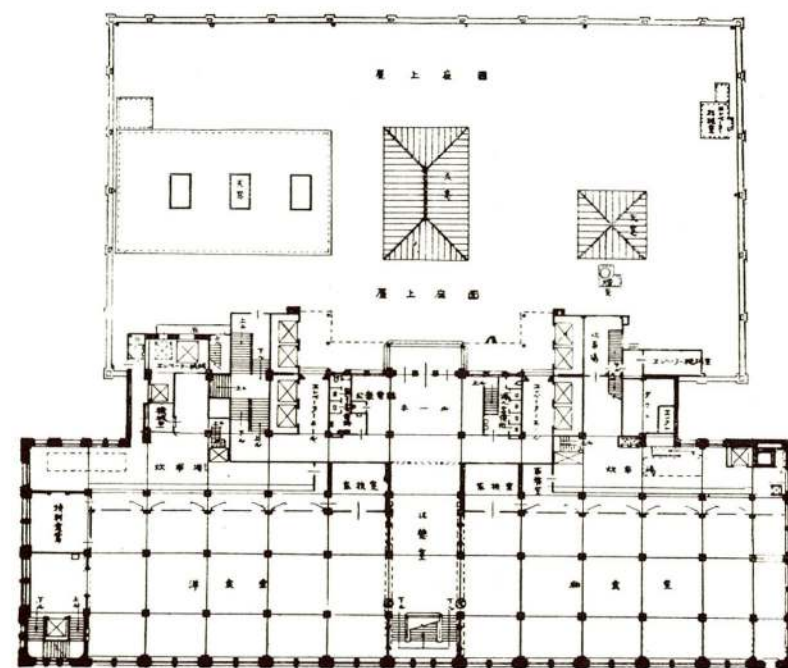
6階平面圖



8階平面圖



5階平面圖



7階平面圖

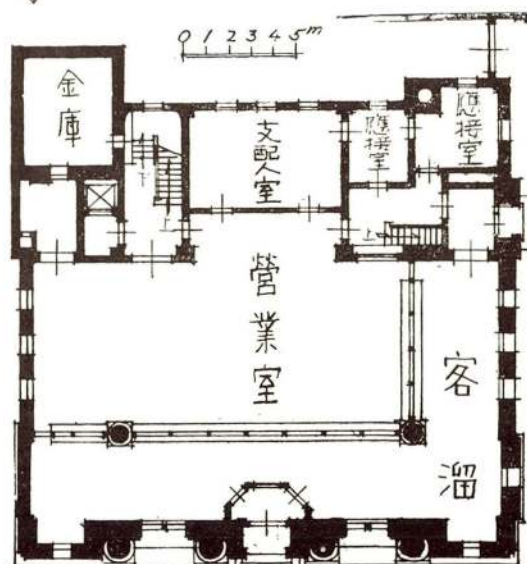


↑ 外觀（堺筋より）



← 内部（營業室）

↓ 1階平面圖



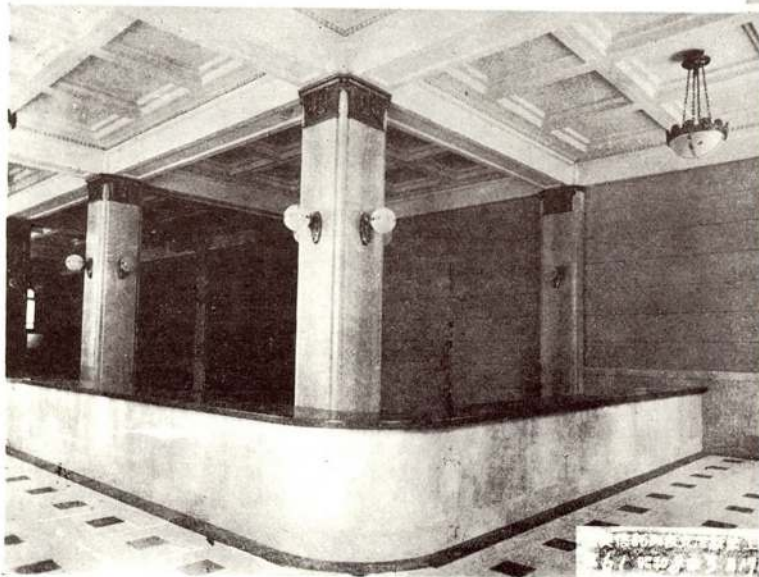
建坪 124.81、 延坪 401.95
 鐵骨筋混凝土造 3階建地
 下1階、外部花崗石貼、昭和7年12月竣工



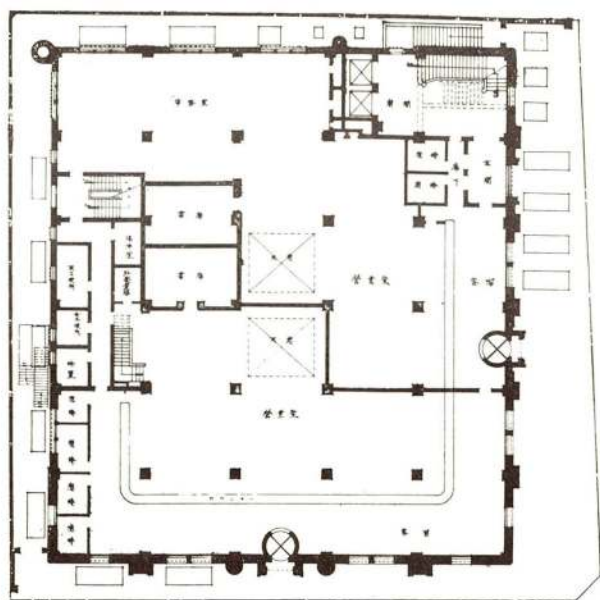
外 觀

大阪市東區今橋4丁目
敷地坪數451、建坪310、延坪1881、建物高68.2尺、
鐵骨鐵筋混凝土5階建地階附、外壁東南兩側萬成花崗
石張、他面人造洗出し塗、營業室客溜腰大理石貼、上
部漆喰塗

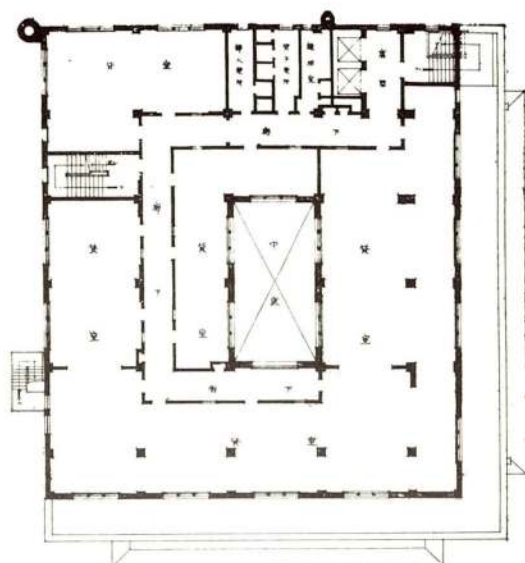
↓ 營業室



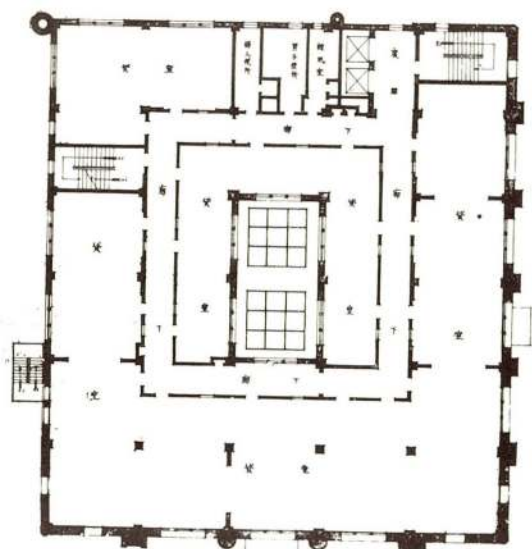
↑ 正面入口



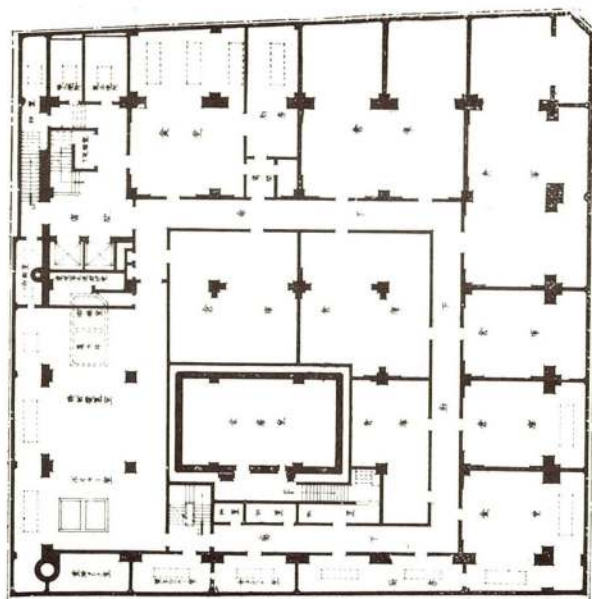
1 階 平 面 圖



5 階 平 面 圖



2・3・4 階 平 面 圖

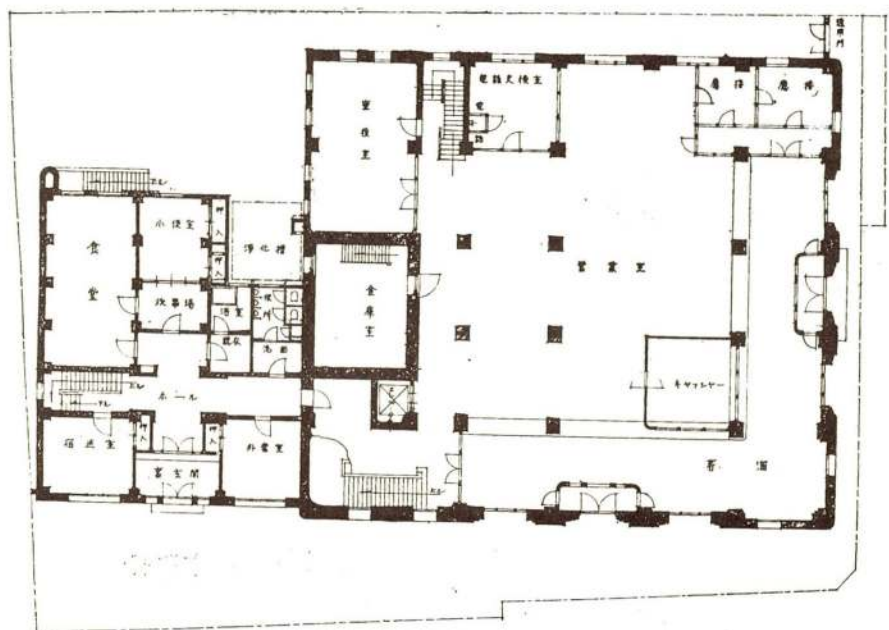


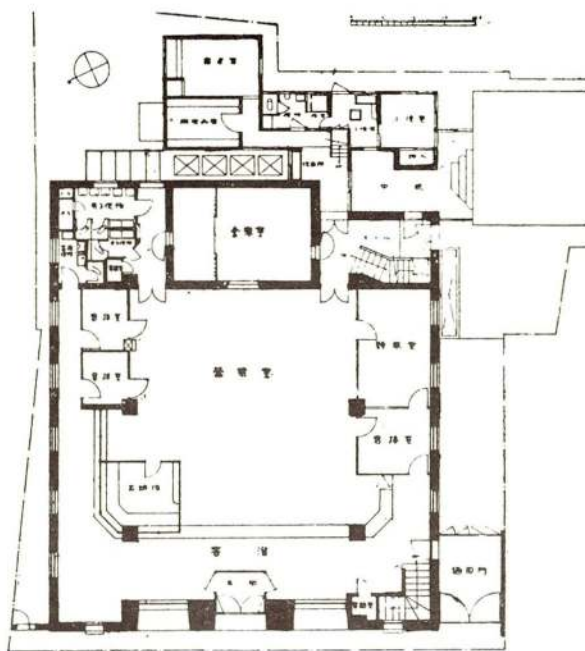
地 階 平 面 圖



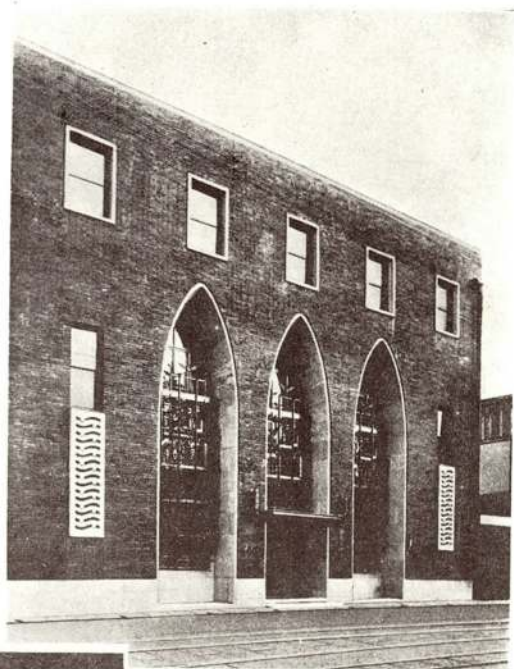
↑ 外 観

建坪本館 202、附属家 60、延坪本館 690、附属家 185、
 鐵筋混凝土 4 階建、大津市阪本町、琵琶湖畔に斷然光つ
 てゐる建物である。



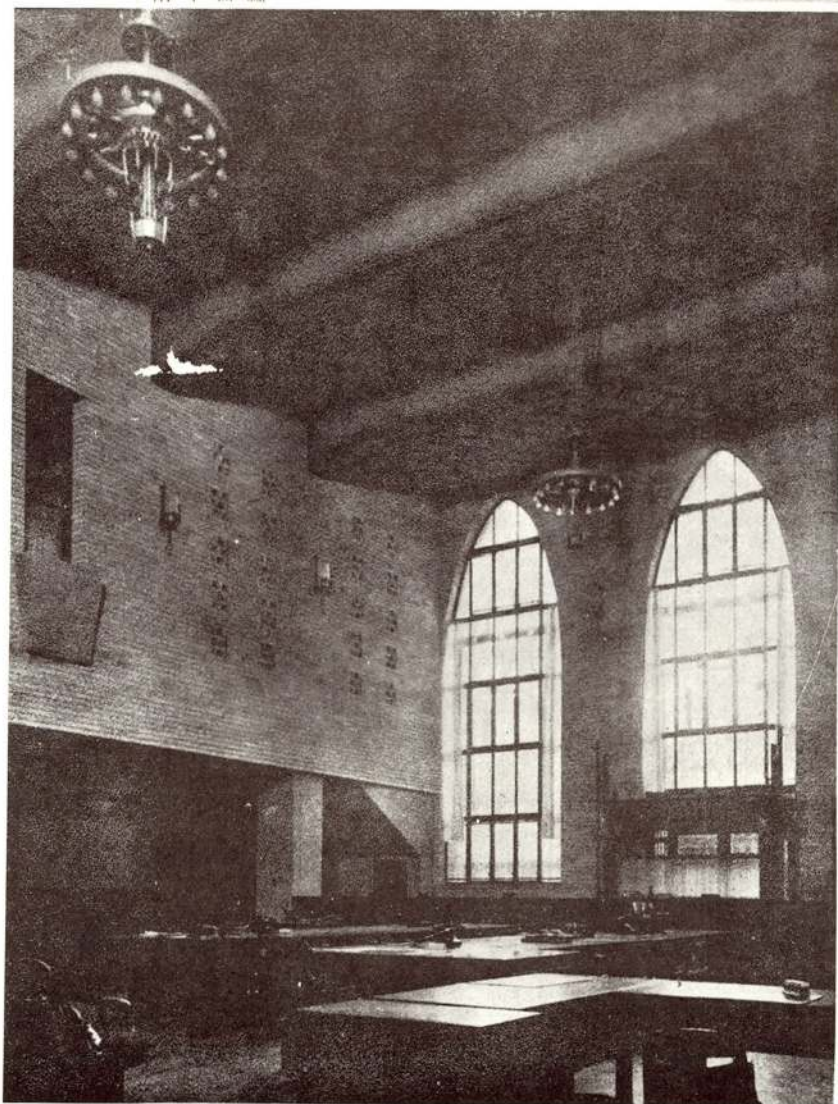


1階平面圖



↑ 外 観

← 営業室内部



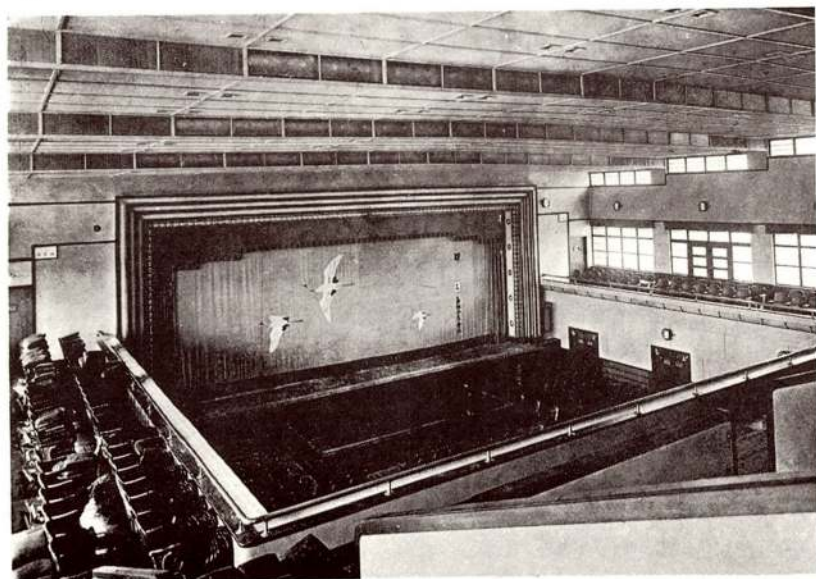
金澤市下堤町42、建坪本館 117.45坪
 附屬屋 16.83坪、延坪 345.47坪、鐵
 筋混凝土造3階、外部タペストリー・
 タイル貼り、各開口周圍にヒシヤ石
 を貼る。營業室壁イミテーション・
 トラバーチン貼り、要所に外國產ト
 ラバーチンを使用す、上部は多孔質
 の特製タイル、天井ペンキ仕上、梁
 の部分はコンクリート打のまゝ、特種
 ペンキ塗仕上。



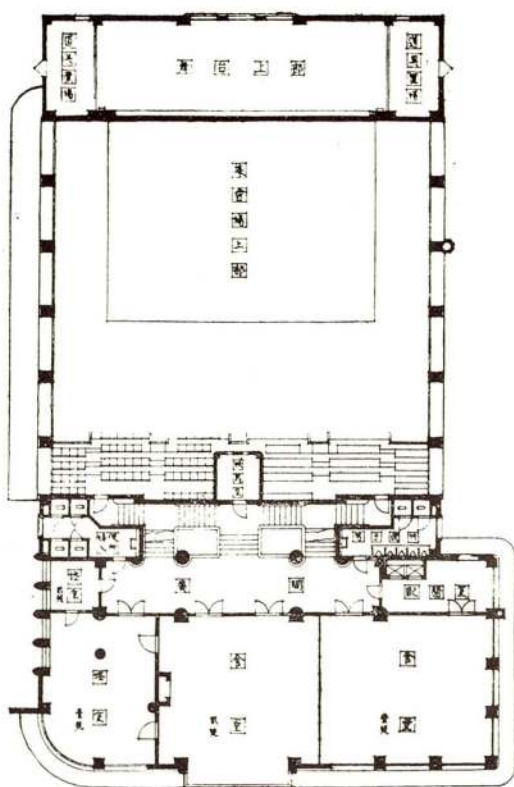
食外觀

兵庫縣御影町、建坪 3C9、延坪 978
鐵筋混凝土造 3 階建地下階附

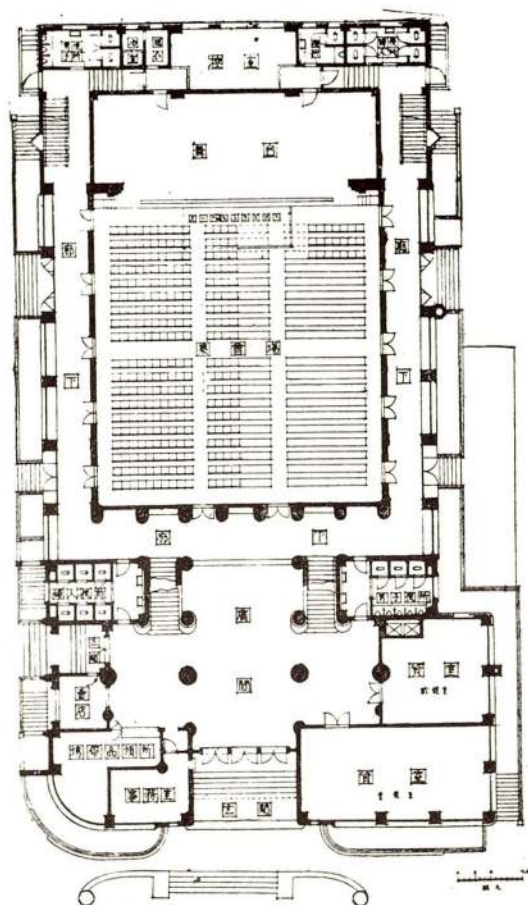
↓ 集會室



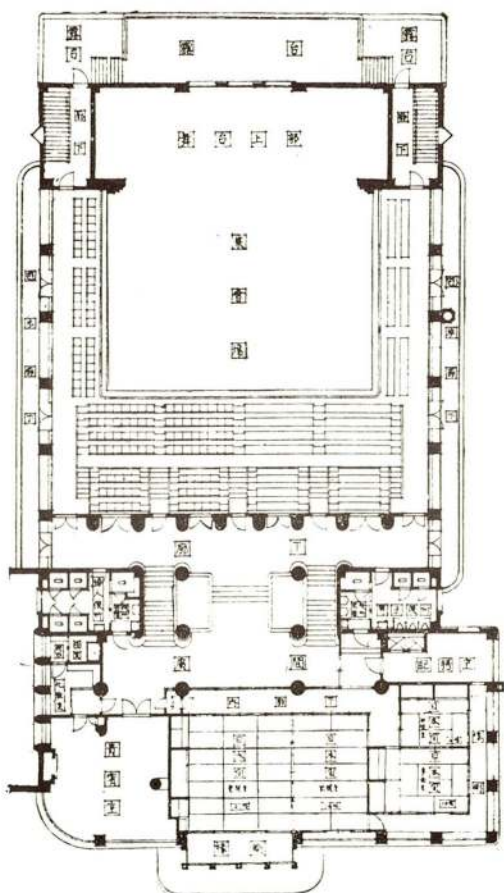
↑ 階段



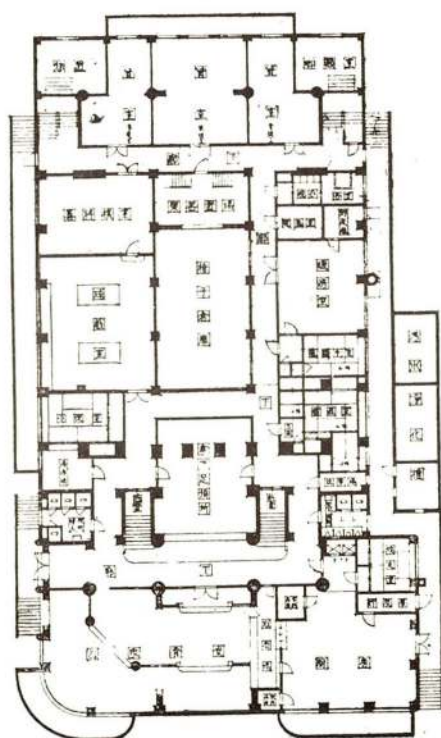
3階平面圖



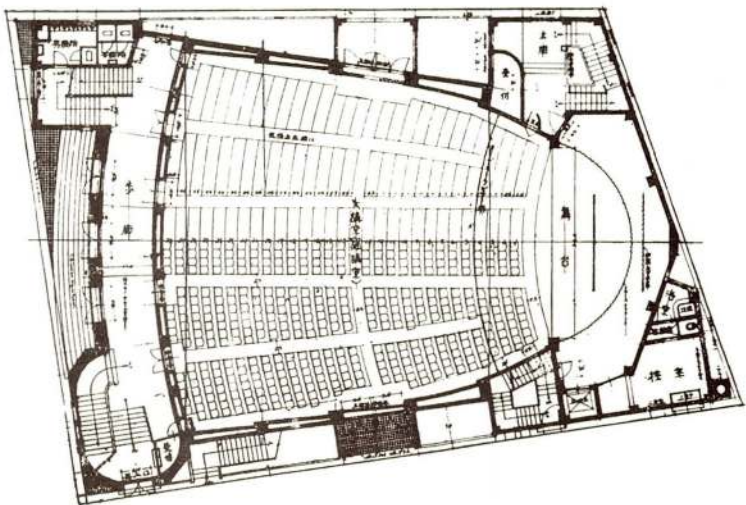
1階平面圖



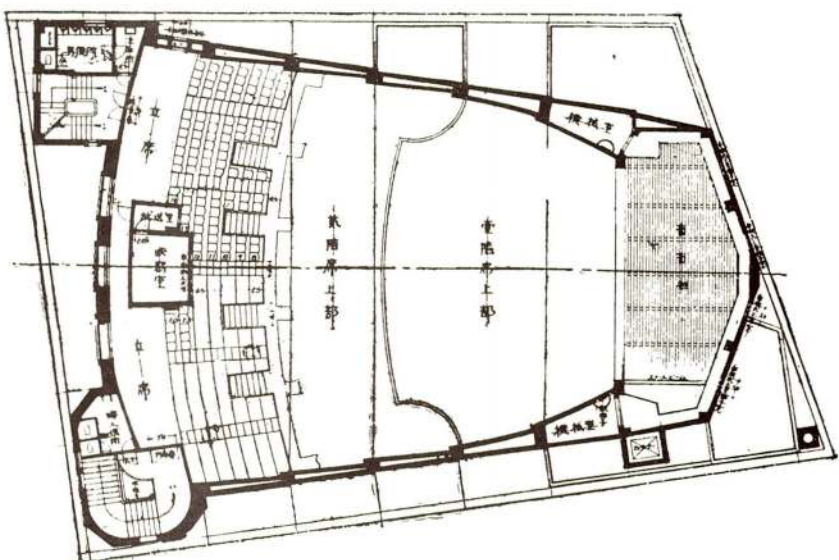
2階平面圖



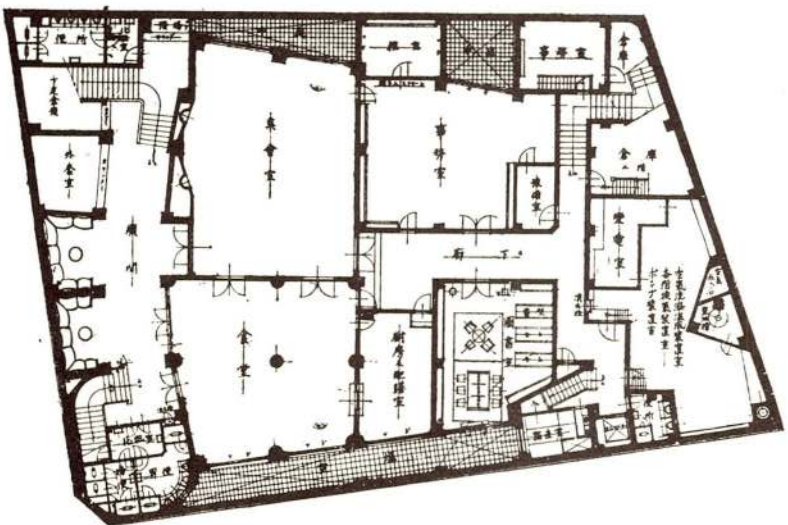
地下室平面圖



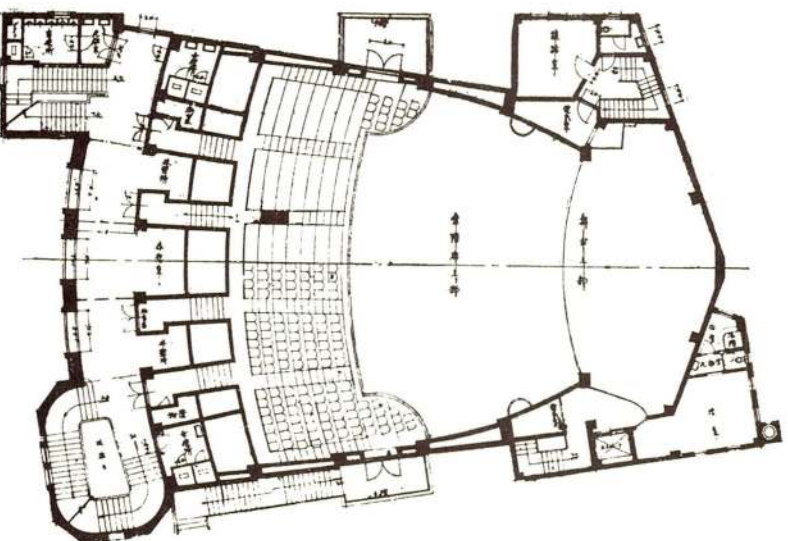
1階平面圖



3階平面圖



地階平面圖



2階平面圖



大阪市東區大手前之町
敷地 406 坪、建坪 258.4、
延坪 899、高さ 55 尺、塔 89.25
尺、鐵骨鐵筋混凝土造
國民政治教育に供する大講
堂を主として圖書室、集會
室、食堂、事務室等が附隨
してゐる。

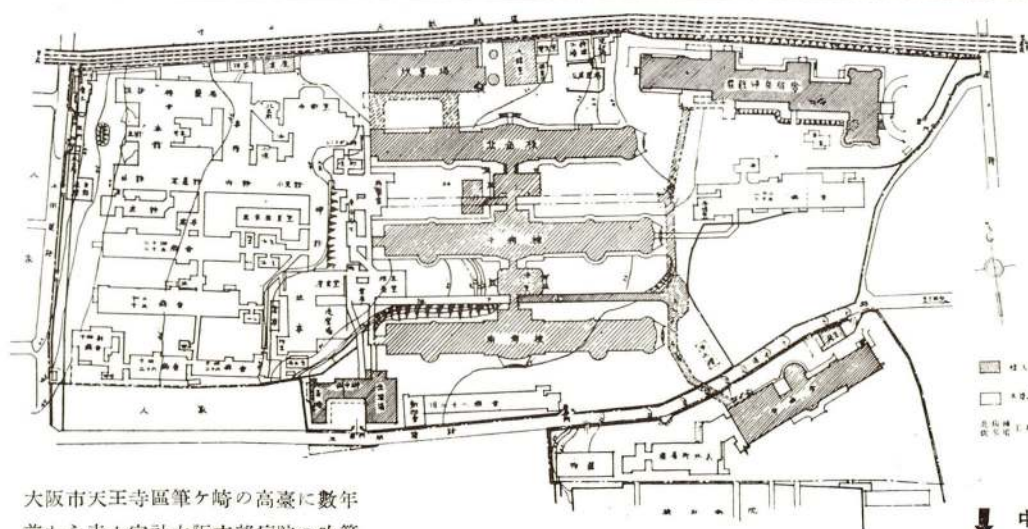
↓ 大 講 堂



大講堂
座席全部で 1500、2—3 階に
棧敷がある、形體材料等音
響的に考慮が拂はれてある
天井及壁はセロテックス貼
コルク壁紙等が使用されて
ある。
外装は腰及出入口廻花崗石
張、蛇腹窓額縁、塔上部等
は擬石貼付け或は人造洗出
塗、其の大部分は凡てタイ
ル張である、總て簡單なが
ら威嚴のある建物である。



日本赤十字社
大阪支社の全景



配置図

↓ 中病棟 外觀

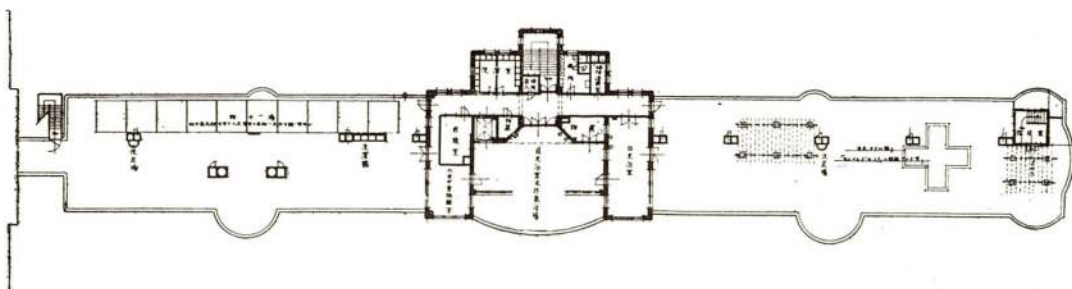
大阪市天王寺區筆ヶ崎の高臺に數年前から赤十字社大阪支部病院の改築が行はれ目下計畫の半が達成された南病棟が昭和4年4月に、中病棟昭和7年3月、分病棟が同年5月、看護婦宿泊所が昭和8年6月竣成した全部完成には尙數年を要するであらう、恐らく近代醫學の進歩に應じた病院建築として各方面より見て東洋第一の大病院になるであらう。

病院總敷地 15263坪、總建坪 5807坪

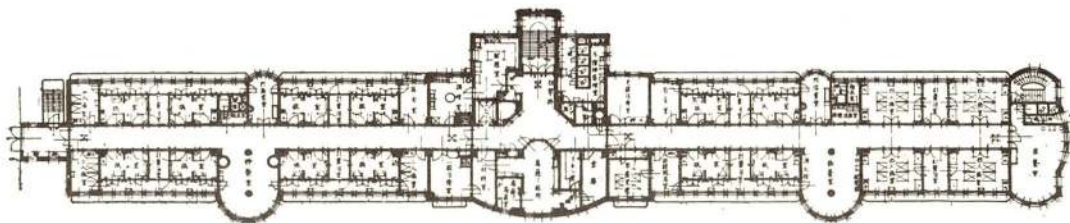
中病棟

建坪 456、延坪 2457 鐵筋混凝土造、外部全部淺黃人造石塗、壓搾空氣叩き仕上、内部天井及壁プラスター、ペンキ仕上及水性ペンキ塗
各種の附帶設備が完備されて病舎として遺憾がない。

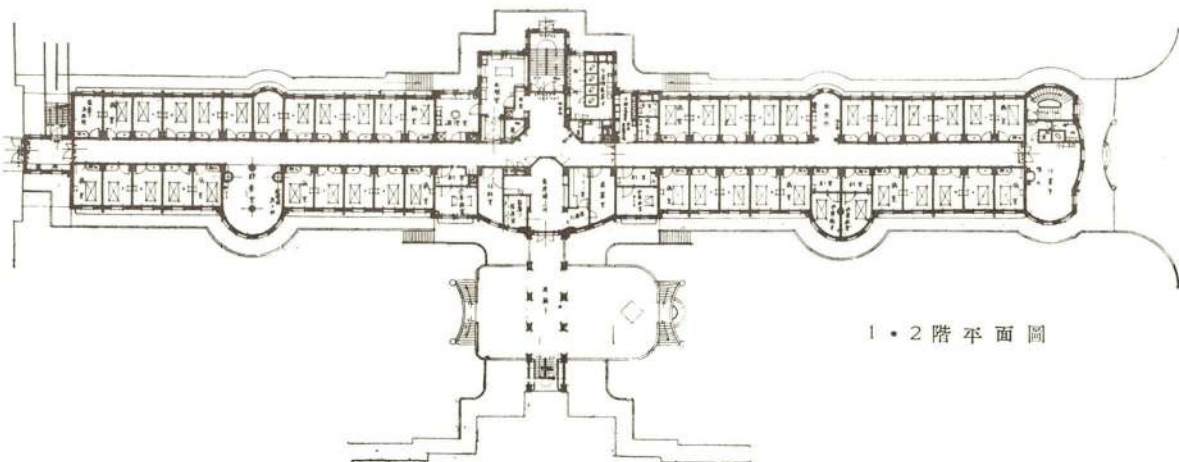




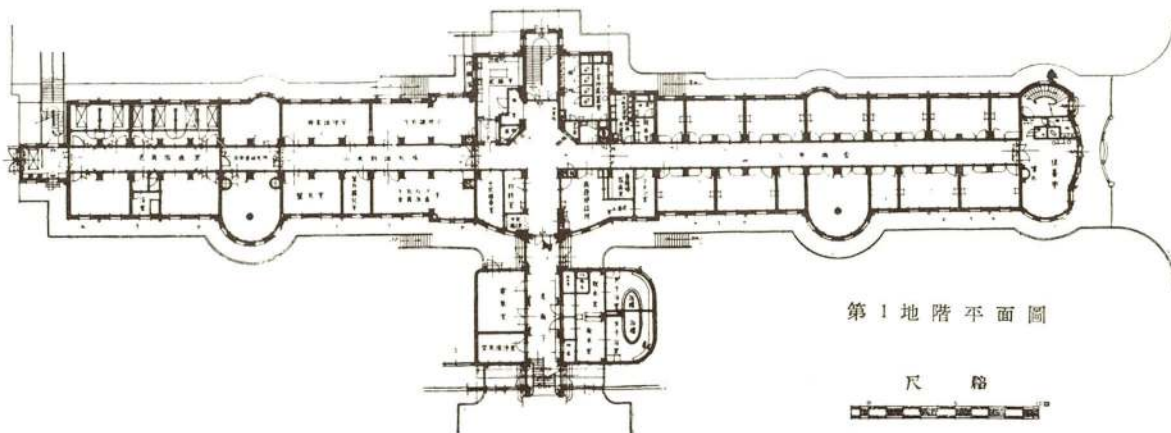
5 階 平 面 圖



4 階 平 面 圖



1・2 階 平 面 圖



第 1 地 階 平 面 圖



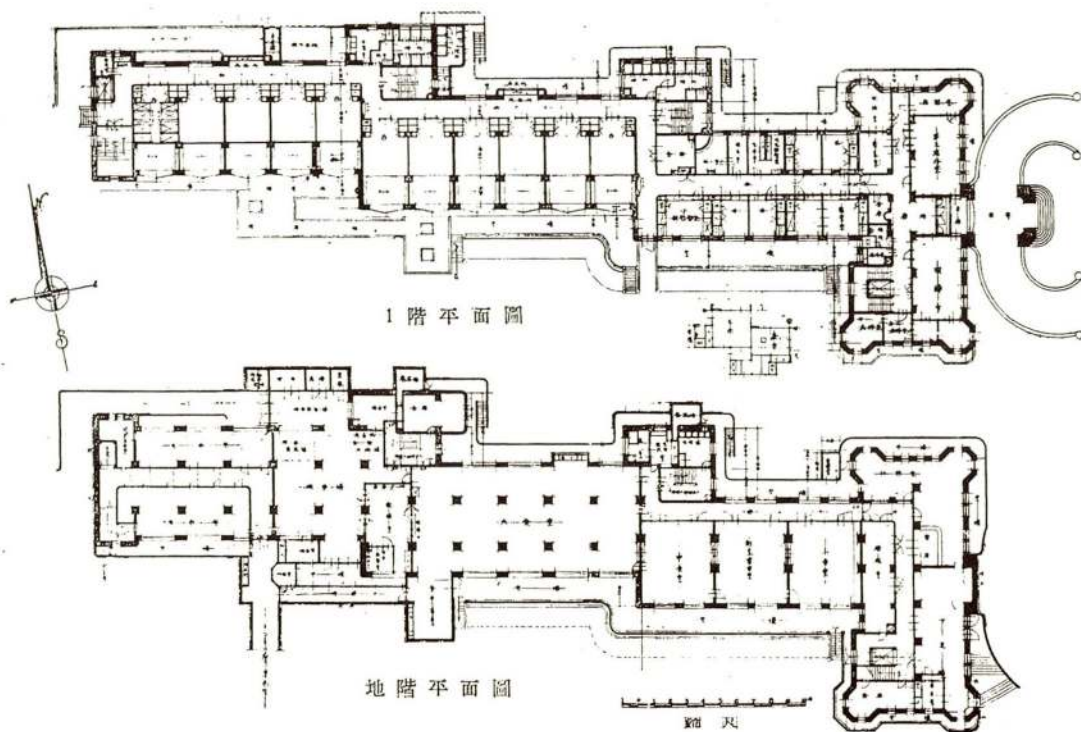


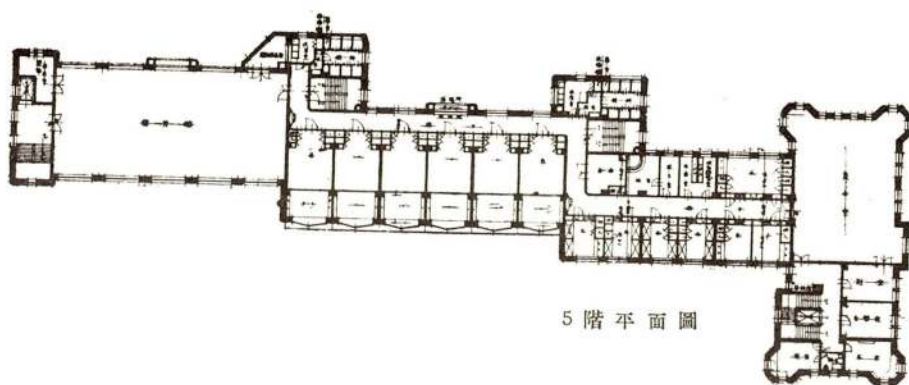
外 観

看護婦宿舎修恵寮

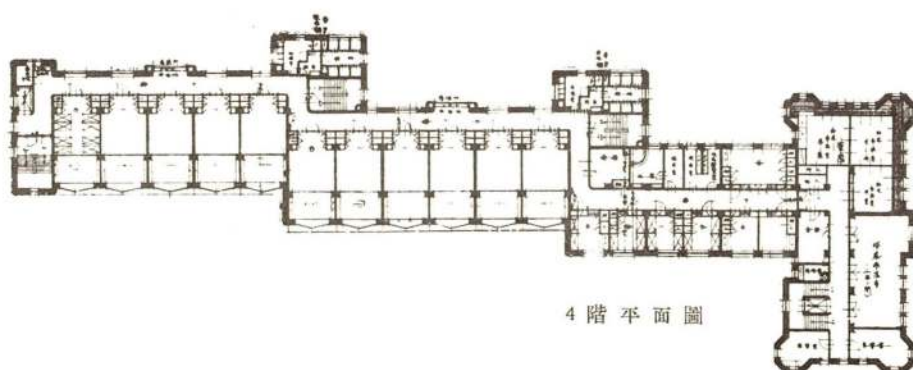
建坪 475、延坪 2883、鉄筋混凝土造地下 1 階及屋根附 5 階建一部体育館屋根鐵骨小屋造、外部モルタル塗、下地へ淡黄色吹付け、内部壁及天井石膏仕上ペンキ塗。

貴賓室、實習室、自習室、音楽室、圖書室、作法室、集會室等があり、主なる部分は宿舎である、尙体育館があり、別棟に小さな茶室がある。

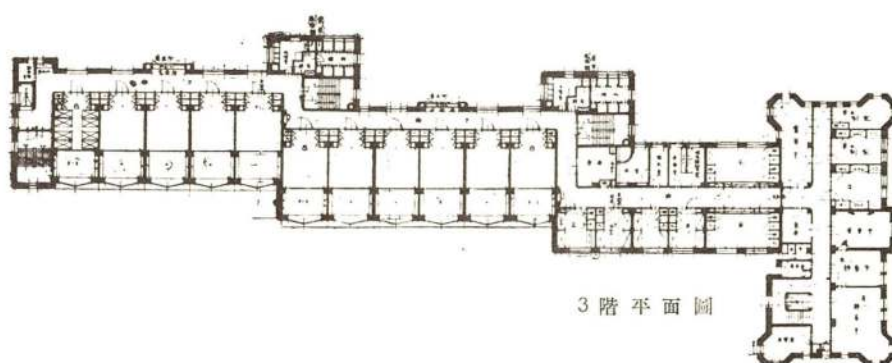




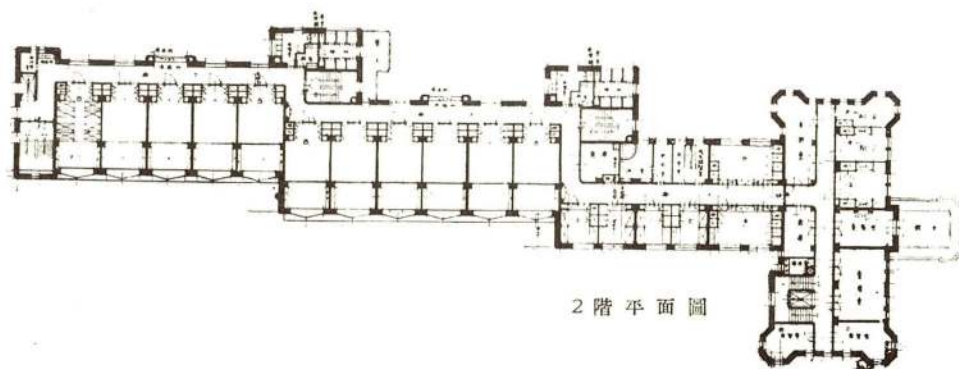
5階平面圖



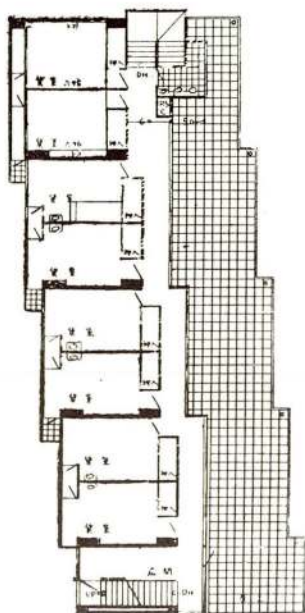
4階平面圖



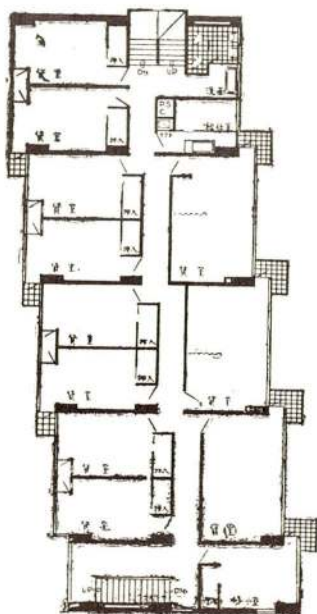
3階平面圖



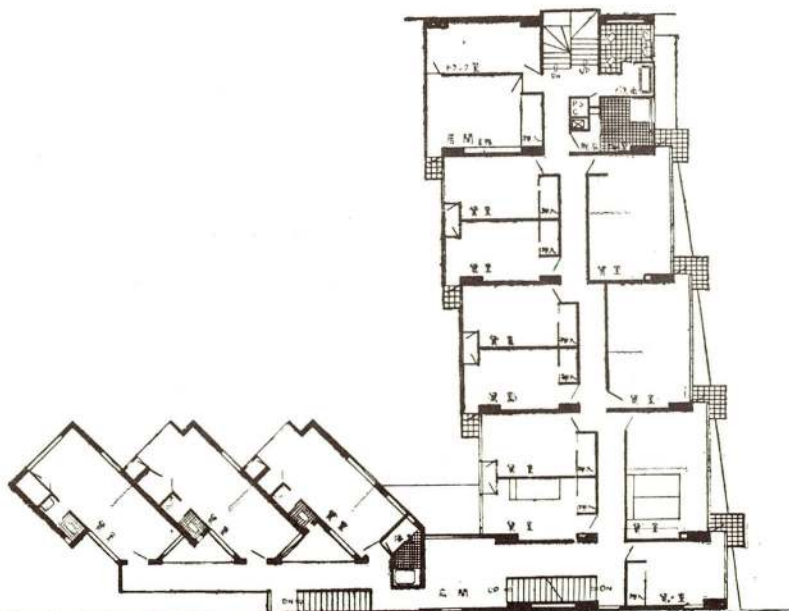
2階平面圖



4階平面図

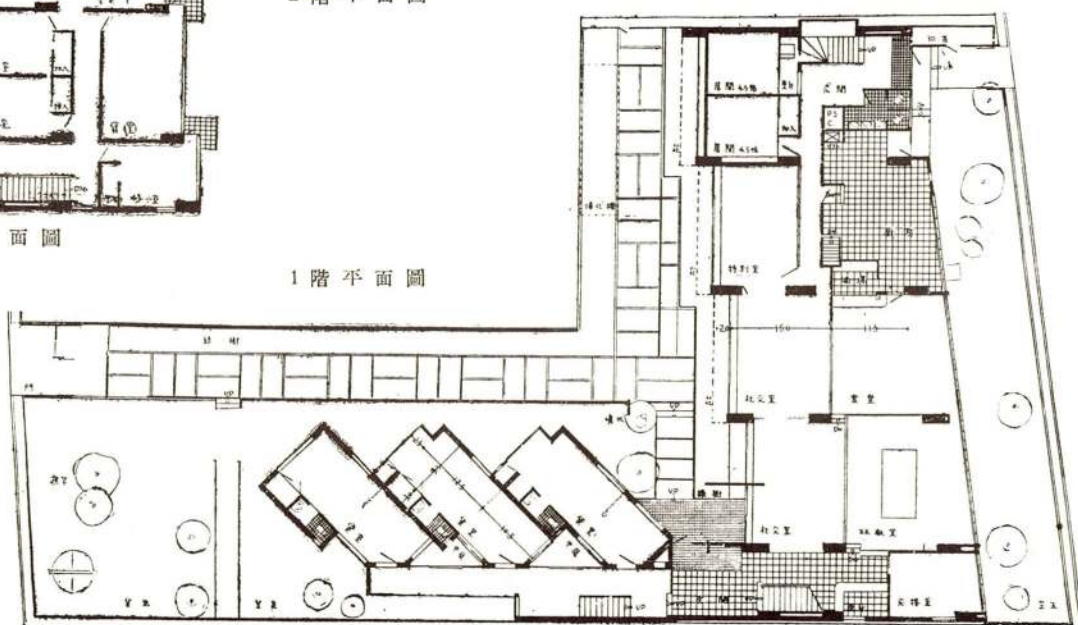


3階平面図



2階平面図

1階平面図



大阪南郊玉出、敷地坪数 271、建坪 114、延坪 360、鉄筋コンクリート造
4階建、一部地下室倉庫附。

敷地の形状と方向とに關係して採光通風による平面形が特に注目される
その平面に應ずる立面が單純な手法から統一された變化が現はれて居る
小アパートメントとして傑出した一例であらう。



↑ 門より

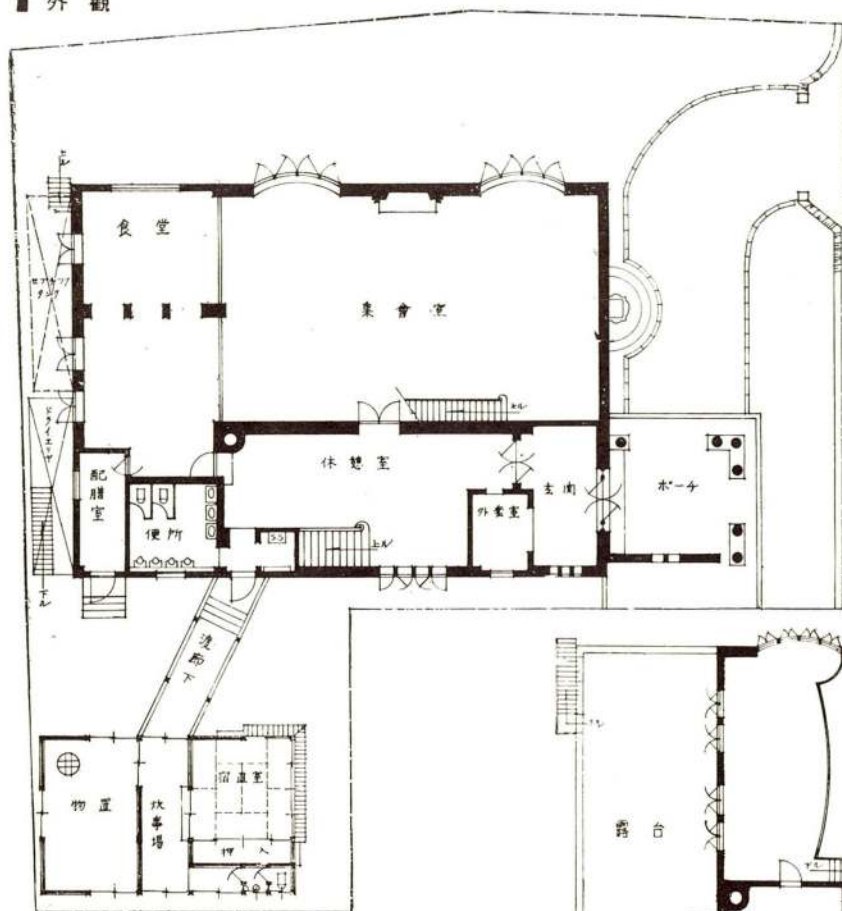
← 玄関

↓ 北側



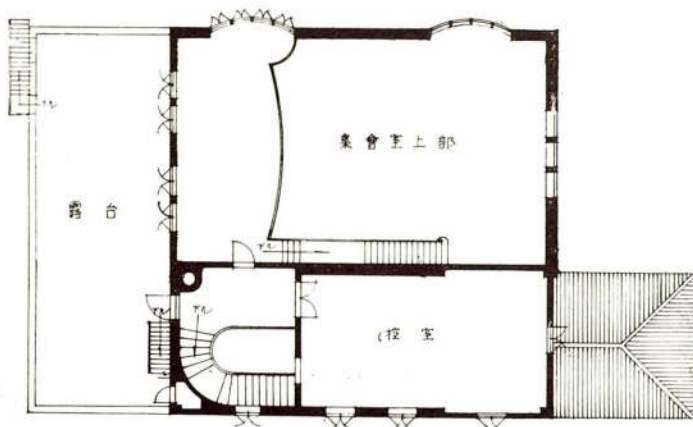


↑ 外觀



↑ 1階平面圖

2階平面圖 →



岸和田市岸城町、建坪 95 (附屬家 17)
延坪 142.95 (附屬家 17)、鐵骨鐵筋
混凝土 2 階建一部地下室附、簡單で
はあるが豪華な俱樂部、大阪の綿業
會館に髣髴としてゐる。



集會室内部

休憩室 ➡

↓ 玄関ホーチ

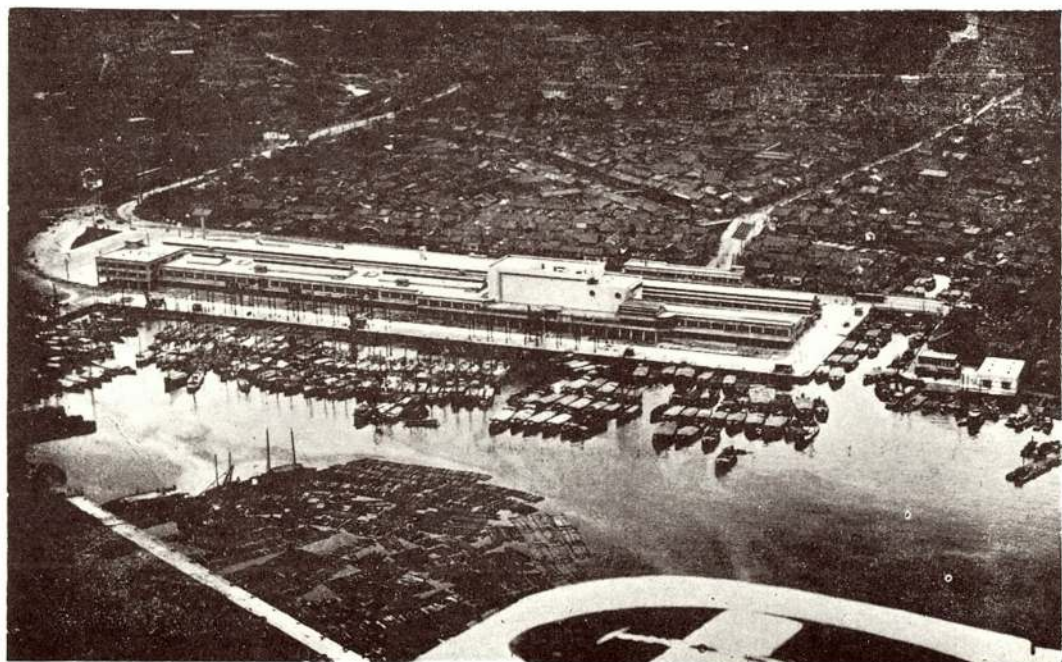


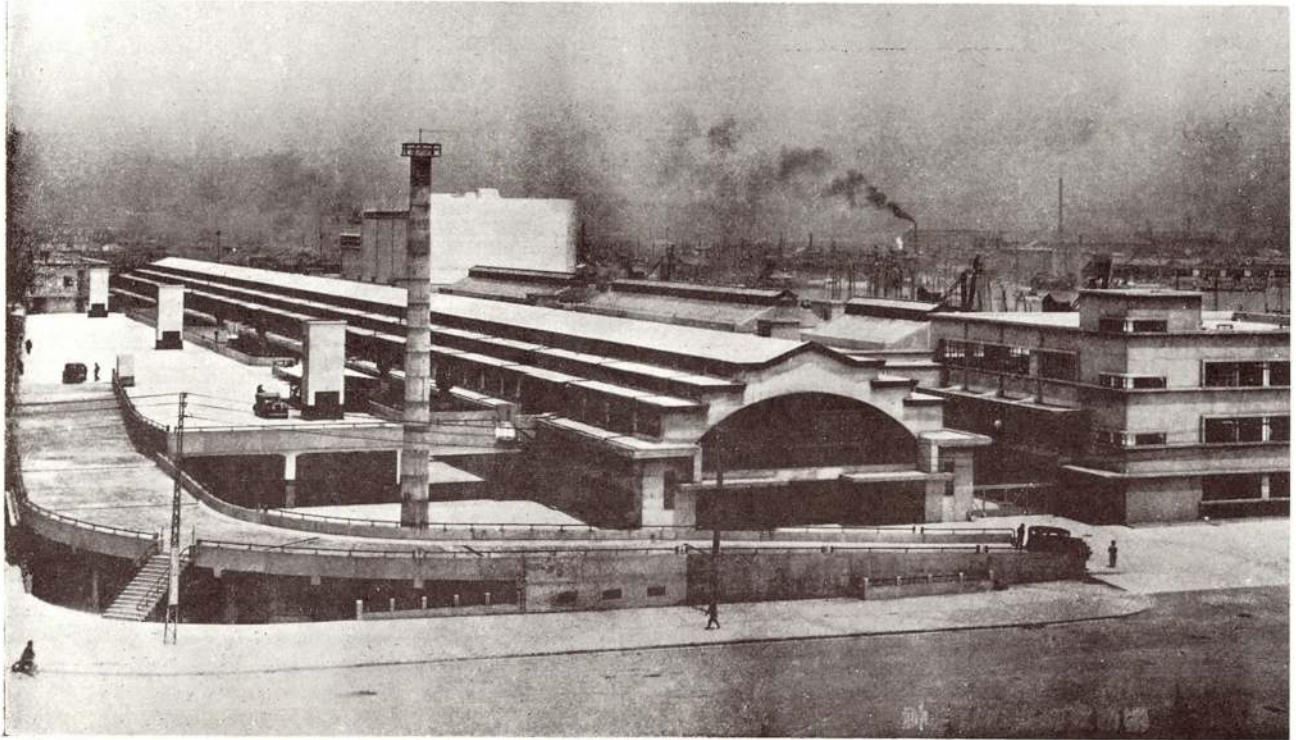


遠 望

神戸市中央卸賣市場

神戸市湊西區新在家町 敷地面積 35,289平方米、
建坪面積 24,832平方米、總延面積 46,146平方米
鐵骨強筋コンクリート造及鐵筋コンクリート造

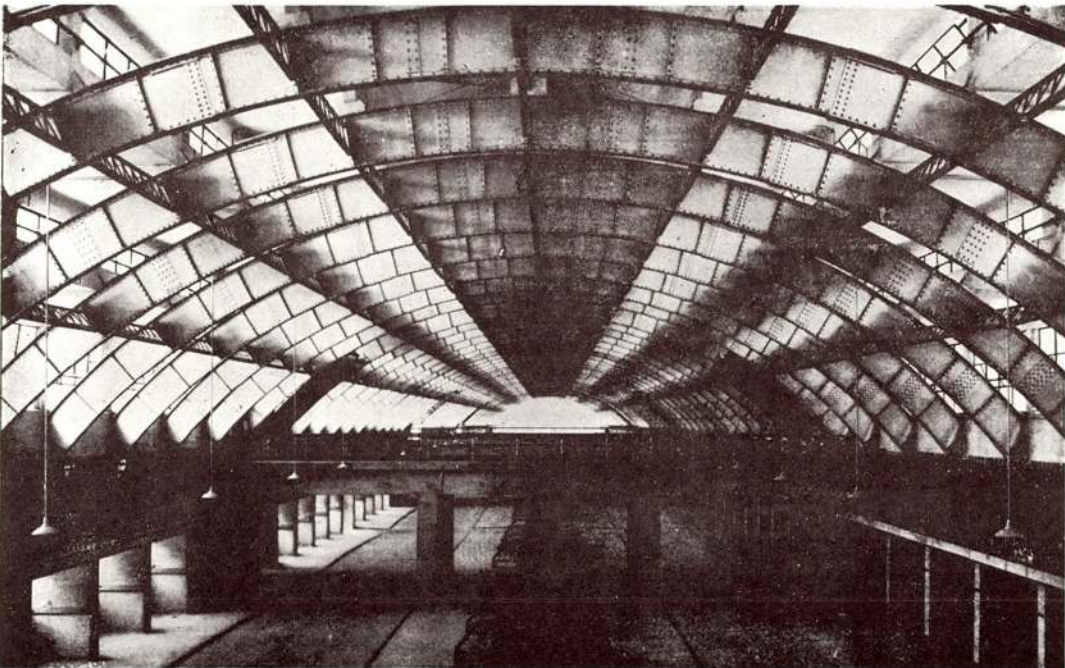


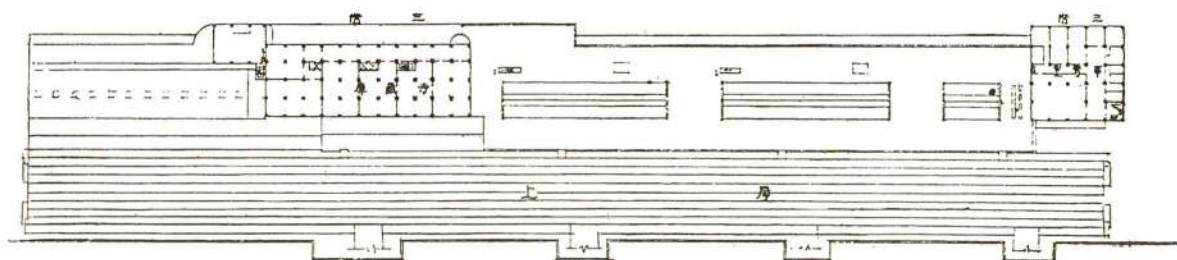


↑ 外 観

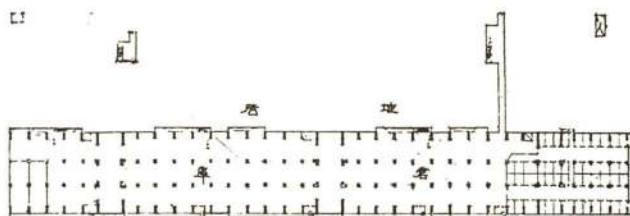
仕上は内部大部分コンクリート生地仕上、天井にはドロマイト吹き付け、
外に面する部分はモルタル塗仕上、床はリノリウム敷、リグノイド仕
上又はセラゾー仕上一般床は板敷或はソリデチツト舗装

↓ 内 部

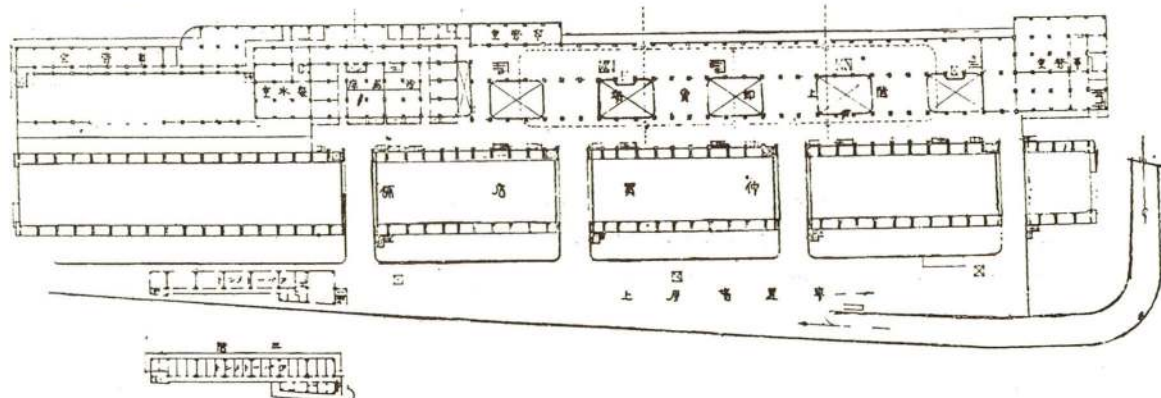




3階平面圖



2階平面圖



1階平面圖

住宅博覽會を見て

松 室 重 光

(1) 叙 説

住宅博覽會が行はれ始めてより早くも十數年を経過し、此間建築は異常なる進歩をなせるが故に、最新の住宅博覽會こそ前古のものと比較して遙かに優秀なる表現あるべきを期待していた、で此感想の一端を披瀝して主催者及び關係會社の拂はれたる勞苦と犠牲に對し先づ厚く謝意を表し、更に將來の爲多少の希望を開陳し置く。

我建築協會が最初に舉行したる住宅博覽會は、實に協會の使命宣揚を第一となして、其間營利的意味の存せざりし爲に大なる失敗なくして濟みたるものゝ如し、しかも猶其施設の根本方針に統一と制齋の威力を欠き、其地域の選定や、其布置や、其各戸の住宅の建坪其規模其形式等が區々となりて一地域を同一統制の下に完全なる生活機構としての表現を見ざりしことは今に至るも尙遺憾が深い。爾來住宅博覽會が隨時隨所に屢々行はれ、世人も又其價值に關して多少の認識を有するに至つた。

近時の住宅博覽會は其性質と目的とする處全く營利を主眼とする所の會社の中心經營に屬して、悉く其宣傳廣告の爲に供せらるゝの觀あり。故に先づ其地域に充分なる利便なきものあり、次に住宅其建築に根本に不自然あり、不備あり、不純あり、よりて生じたる結果は眞面目なる住宅欲求者の失望を招き大抵失敗に終りしものゝ如し。

這般綠ヶ丘、大美野に於て行はれたる我建築協會主催の住宅博覽會の如きも、不幸にして此好ましからざる先蹤を逐ひたるやの觀ありて、其規模の大小、其地理的事情等の差異はあれど二者を通じて共に其根本なる營利的經營事業と關係せし爲、本建築協會の眞使命は充分に發揮せらるゝに至らざりしものと思ひぬ。

(2)

勿論住宅は科學の所産にあらず。従ひて又必ず一定の方式の下に建てらるゝものにあらず、個々の人々の其自由なる意志の欲求によりて左右せらるゝものなると共に今も猶其進歩改善の道程中を行くものなれば、その完全なり得ざるや言を俟たず。よりて以て之を一定の理想や標準を立てゝ批判し、組織し、建設して徒らに個性の自由表現を拘束すべき性質のものにあらざれば、そこに表現せられたる物につきて幾多の不滿あるも蓋し又不得止事柄なるべし。其土地の根本選定や、其地の區劃や、種々なる點に於て幾多の好ましからざる事ありしも、其經營上の目的が營利を主となす以上、然あらしめたる事は寧ろ當然の歸結ならん、唯之をよく利導し得ざりし點を特に遺憾とす。

本來住宅部落の經營と云ふが如き特殊事業は其性質上國家又は公共團體に於てなすべき事業にして、之を一營利會社の自由に放任すべきものにあらず。茲處に我國の住宅經營に就ては其根本政策に無理あり且つ不理解あるものとす。

營利事業たらしむるが故に何よりも先づ安價なる土地を物色す。此安價な土地が適當なる住宅部落を生み得るや否や第一の問題なり。

次には之を出來得る限り高價のものたらしめて、つとめて多分の利益を擧げんとし、即ち大々的に宣傳を行ひ、術策を弄して、如何にも其土地が高燥、其水質が良好、其氣候が適和、其空氣が清純、其眺望が佳絶、而して其交通が至便であると言ふ様な事を殆んど例外なしに並べ擧げて住宅欲求者の第一の好奇心をそゝるのである。

是等の諸點にどれだけが眞であり、又どれだけが掛値であるかは其處に屢々往來し又は居住し續けて追々に知らせるゝ事にして、最初の一見位では充分に判明せぬのである。

此點が住宅經營者の乗ずる所にして、卒然として其地に臨み其説明を受けると多くの人は先づ迷ふを常とす。

土地が安價であり年賦にて買へ、其所有權は始めより取得せらる。家賃だけで完全な家が建ちて其設計料や監督料を要せぬ等々の廣告には正直にして無性なる人達は必ず一度は考へて半信半疑の狀態に墮する。其處へ色々の證言、賞讃ありと言ふ事となれば迷ひ込むのは當然である。

然るに會社は本來營利的であり、打算上の結果を考へて之が計畫を立てゝいるのである。顧客の利益のみを計つたのでは自家の利益とはならぬ。依て此間に適當な甘味を吸ふ様な「からくり」を施こして置く。

此魂膽が何々であるかは茲處に擧げることを避ける。たゞ斯様な住宅會社の多くは其土地の一分割でも賣り得られたならば、それで充分の利益を收め得るのであるから、後は野となれ山となれと云ふ次第で、なかなか居住者の便宜は計つてくれない。でも一旦此處に居住を定めた以上は容易に移轉も出來ぬから居住者は何とかして利便ならしめ様として種々に追加施設して相當な犠牲を拂ふのである。

以上述べたる所は住宅會社中其性質の良からぬものゝ半面である。悉くの土地住宅經營の會社が皆一樣でない事は勿論である。眞面目なる經營者は其土地の改良なり、交通の整備なり、又各般の附帶的施設に相當の努力と犠牲を拂つてゐるものである事を知らねばならぬ、たゞ之を判別するに一寸困難がある。

我建築協會の主催したり又後援したり關係してゐる土地住宅會社は此後者の方であるが博覽會などと呼ばれると從來の慣習上兎角に其實現が急がれたりして自然に其計畫を愼密にして萬全を期し得られない場合が多いのであつて、折角關係者が心力を費やしてやつた仕事に充分の効果を奏しない様になつてゐるのは毎度ながら深く遺憾とする所である。

(3)

住宅群（又は部落）は其土地、其家屋、其環境が可出來限り一樣であり、即ち平等に近いものであつて、其群中の一たりと雖も他と比較して甚だしき懸隔のなき場合に於て始めて生成の價值あるものと信ずる。

即ち或物を構成する所の單位原子が同一であつて、それから一つの分子となり、一個の

生活機構として完全なる働きをなし得るものと考へて其土地事情が同一状態にあることが必要であらう。これは特に我々日本人の好む處であり、又理想より言ふも同じ様な日光の照射、風氣の流通、地物景觀を取り得るのが必要であると思ふ。無論敷地面積も略同じ大さとなし、又其高低に於ても大差なくして、甲の家より直接に近く其窓下に乙の家を見おろすが如き事を要する。

これは根本の要求である。凡そ人情の常として自分が可成他より低く見らるゝことを欲せざる點より考ふるも住宅が一樣な状態に置かるゝ程よい事はない。

父母が其種々なる關係境遇に於て其生活状態の他と一樣なり得ざる場合と雖も之を兒孫迄及ぼさしむるを欲せざる有難い人情から見ると、住宅の敷地に可なり差異ある大小があり、高低があり、又其種々相に見別け易い表面的な差違の存する事は勢ひ居住者の間に差別觀を發生せしめ隨ひて此處に集る無心純眞の子弟に優劣觀を起さしめ、其「プロ」「ブル」の差別的見地から嫉妬的觀念階級鬭爭的意識を惹起せしめ其部落の平和を害し共同生活體として其完全なる機構の用をなさしめざるに至らんことを恐るゝのである。

思ふに住宅は其規模に於て、其構造に於て、又其形式に於て全然自由ありとも言ひ得られやう。或は右の通りに見た方が自然かも知れぬ。住宅の改善進歩を企圖する上から言ふも斯く見るを必要とすべきならん。併しながら之を集團體形として一個の取纏めた生活機構として考ふる時は、其個々の住宅に餘りにも目立つ所の差違表現をなすは決して好ましきものとは言はれぬ。

其規模に大小があり其形式に精粗があるも各々獨自の立場で他とは全然没交渉で生活する事を得べく、他を俯瞰睥睨し得る高位置を占めて黄金の光を見よと言はむばかりの面構も又人間優勝生活の様式であらう。

がこれは他から見て決して快とせぬ所である、又自省すれば決して憤ましき態度でもない事が明瞭である。内面的には兎に角、外面的な共同生活體には超群性は孤獨の寂し味ありて面白くない。

(4) では今度の博覽會は

此博覽會こそは其見方によりて自ら其批判の範圍と内容とを異にする。若し博覽會が種々に異なる形式構造内容の住宅を建列ねて、人々に住宅建築智識又は住宅群の一般的意義普及の爲にするものなれば、今次の舉は先づ及第なり、短期間に家は勿論、周囲の塙垣や庭樹や其他の附加添設も又よく行届いて直ちに居住使用し得て表面的には些の不便不備なき迄のものたらしめた努力と手際には充分敬意を表すべきである。

左れど此博覽會を住宅改善途上の一表現と見れば大分其批判の標準を異にす。即ち在來住宅中の改善すべき諸點は如何に取扱はれ表現せられたりや、不幸にして今次の博覽會には猶意に満たぬものがある。

例して見ると大美女野の様に一般觀覽者からどの家を最良と思ふかと言ふ問題を出して之に懸賞した遣方に一考を要する様である。

何故かと言ふに此處に建てられた家々は其敷地の状態に於て、其大きさに於て、其建坪に於て、其内容外觀等に於て皆悉く相異なつてゐる。一樣な尺度では測定出来ぬものである。で夫々の建物に別々な尺度を用ひたら間違ひである。但し同じ尺度では測定しやうがない。すれば如何にして甲と判じ乙と評したかと言へば答へは唯「感じ」と言ふ事に歸する。一種の「好み」から来る直覺である。此「好み」が多數の人達の間に一致し居れりや否やも疑はしい、いや多數の得票あつた場合が同じ好みで挙げられた事となるが、果して同じ好みか斯くあらしめたとは斷定出来ぬのである。

では余の見所如何、正に叙述し來つた如く一種の尺度を用ひんとする。

第一は其土地の選定である。之は特に今度の博覽會の爲に用意せられたものでないから其状況價值批判は自ら別の問題である。だゝ緑ヶ丘は處女地であり大美野の方は既開地であつた。で前者については多少の希望的意見も加へられると思ふが後者には之を容れられる餘地はない様である。

兩者は共に廣大なる地積を有し大阪を中心として北と南に相距つてゐる。其距離は中心大阪迄必ずしも近しとは言はれぬが決して遠いことはなから、多少の距離時間の延長は其施設によりて充分償へる事である。

前者は阪急伊丹驛より「バス」の連絡によらねばならぬ點を差當りの現實的不便とするがいづれ近き將來には能勢方面との電車の延長連絡も成るべく斯くして其距離は相當に短縮せらるゝものと思ふ。後者は南海電車の停留所に近く、此點では既に申分がない。

共に高臺である。前者は二個の可なりな廣き水面を有する池塘を中心として其周圍には美はしき樹林があり、又稍離れて北驛の連峯が見られ快閑ではないが非常に落ち着いた處である。

後者は景致として直接の地物を有してはいないが四望廣潤生氣に満ちた明るさを持つてゐる。之は北と南との自然の結果とも言へやうが、土地としては共に先づ良好である、即ち前者は静閑味を好む人に宜しく後者は活動氣に生きんとする人に宜しむ。従つて此兩者に於ける生活様式は自然其住居にも影響する點があるものと見る。

第貳は其全體的「プラン」である、前者は道路等の取り方が稍狭く、後者は之に反して稍廣い、之又土地の事情に相應した施設かと思はれるが後者の住宅群だけに對するものとしては稍大に過ぎで幾分其必要の度を超えていると思はれるに反し、前者は少しく小にして聊さか足らぬが如く思はれた。特に前者は其池塘を中心とする點に於て、之が必然的に公園的に取扱はれて其全體的の要部をなす點より見て其周邊道路は今少し廣くした方が宜しかつたかとも考へて見た。

猶此池塘は村の用水池で會社の自由經營に屬するものでないらしむが之に流入する水路の堤が「コンクリート」造で下水渠の如き觀あるは甚だ不自然で折角の風致を損じてゐる事多大のある、之は何とかして速やかに改善せらるゝ事を希望する。

就て思ふ事は攝河泉中田畑の用水としての池塘は其規模の大小の差異こそあれ、隨所に

點在して存し、其或物はそれ自らよき景觀をなしている、從ひて其周圍にはよき住宅群を配置せられやうと思ふが從來之を中心として完全なる「プラン」が立てられたものは殆んど無い様である。此點は今後の住宅群經營について最初より留意してかゝると宜しむ。

猶道路の布置より見るに大美野の方は一部ではあるが歩道と車道との區分迄せられてゐるし又並樹も植えられてゐる。ただ此歩道の「セメント」叩きには味がない、聊さか殺風景である、これこそ今少し其幅を狭めて小石敲きとでもして置きたら一層住宅地としての良き感じを與へたであらう。前者の方は並樹もあつたが道路はまだ完備してなかつたから之は追々に田園趣味の裕な自然をよく取入れた施設あらまほしく思ふ事をあげて置く。

更に慾を云へば斯る住宅群の間の道路の並樹や其の一般的施設は其土地事情に則してよく工夫し、出来る限り自然美の表現であらしめたい。樹種の如きも縁に乏しき都會の道路並樹と同一に取扱ふべきものではなる。家々の垣や柵との調和をも考へねばならぬ。

第三は一戸の住宅用地積である、これは特別なる地理的關係から止むを得ずして出来た特大、稍少なるものを除きて大體平均している様であるが、その特大なるものと稍小なるものとが其間に狭まれ居る事は余の面白くないと感ずる。

特に其敷地が僅に六七十坪に満たずして茲處に平家が建てられ其前後又は左右に貳階屋がある場合、此住宅に居住する人は決して窮屈味を感じずして居られやうか、たしかに此小地積上の家は見劣りがする、此點は避くべきであらう、之は余の主持する意見である。

又百坪内外の地積上に二十五六坪の建築をなせば其周圍に何程の餘地もなく、之に多少の樹石を布置すれで幾坪かの花壇菜園や一坪足らずの犬舎鶏舎の施設や、或は薪炭雜具の物置の配備にも稍不足を感じ隣地との境界僅かに三尺に充たずして辛く往來し得られ、高き板塀等にて互に勝手元や裏面を見ざる様施設しやうとする點などに幾分の無理と困難のある事を覚えしめた。

で此部類の住宅群には尠なくとも建坪の五倍以上の地積を與ふべきではないか。田園に生活して、より自由な、より潤き、而して「のびのび」した感じを充分に味ふ上に於て二者共に其一戸に配當せられた敷地が稍少なくはなかつたか。

勿論敷地と家との配置關係をよく考慮して其利用餘積を出来る限り多大ならしむる工夫は技術的に猶可能性の存する點であるが、これには各戸が自由に任意に設計せられ布置せらるる限りは望まれないのであるから、自然其處に何等かの統制を必要とする事とならう。

第四は住宅其物である、孰れも器用に出来ているが間取がゆつたりしてゐる。米突法の行はれむとする場合、せめては改良住宅として此尺度の長所を充分發揮した廣さのものたらしめたならばと思ふ。

之は現時何れの住宅にも見る點で獨り此場合に限られた事ではないが、其勝手回りが餘りに局限せられたのは遺憾と思ふ。炊事場、浴室、洗面所、便所は常に言ふ通り住宅としての生命存在の最要部なるにも係らず、それが申合せた様に一樣に狭かつたのは現時建築關係者の墮している謬見の然らしめた事であらう。

これは建築家自身の大に反省すべき事ではないか、住居には規則よりも自由を要する。

活動の源を餘りにも極度に制限して可成的居室や玄関や應接室を餘分に飾らうとする心理は好ましくない。これは男性として家庭をよく見ぬ蔽であり、女性よりすれば一種の虚榮に生きんとする浅見から來るのである。

方三尺に足らぬ土間で戸の開閉や風呂竈の焚火やよく窮屈味を感じずして行動し得べきや否や、燃料として瓦斯の利用出來ぬ土地の竈に薪炭置場としての廣さすらなき點、日常生活用物資の配給が必ずしも便利でもない處に其等の非常用貯藏の餘積を持たぬ台所、其處で我等は常に安心して天災事變の際の事も考へずに居られやうか。

第五は外觀が通じて必要以外に複雑に過ぎ繊細に過ぎ、唯變化と技巧との表現に汲々として家の自然と眞味の表現を忘れた事である。

自然にして且つ絶対に安全ならしめ得べき屋根の形態を殊更に變えたり、態とらしくしたり、これ見よがしに取扱つた點を不可と信する。

外觀に重きを置く蔽は家その物に「をちつき味」を欠くことである。莊重とか敦厚とか言ふ趣きは不幸にして近代的住宅の多數の外貌よりは求め得られなる、此點は我國民性の反映かも知れぬが決して好ましき事にあらざと思ふ。

第六として最後に一言したきは是等の家は直ちに何時にても居住使用し得らるゝ様完成を期した爲に其周圍の垣や門や樹石の施設配置が稍重くるしく餘計に加へられた點である。是等は夫々に必要ではあるが功を急ぎて満足の得らるゝものでなる、樹石の配置に於て特に然りである、又表門等の構へにも見え透た無駄のあつた點は遺憾とする。

(5) 今後のものに對する希望

以上予の所感より將來更に行はれむとする博覽會について希望案を擧げて置く。

第一に我協會は全然指導的位置に立ちて競争の渦中に投ぜざる事。此理由は説明を要せぬ、若し不得止して實際的に協會の立場を表明する必要あらば必ず理想的に其一一につき充分説明の出來るものたらしめたい、例へば米突法によりて室は大きくし、壁、天井、床等の構造を合理的にし無駄を省く、勝手回りに絶対に遺漏のなき施設をなして、先づ家として最も必要なる部分を完備し何人も其施設に首肯せしむる様なすべきである。

第二は住宅智識開拓の爲、又其進歩改善の爲に最も優秀なる範例を示すことを目的とし、必ず一定の地積一定の平面によらしめて數戸の家を建て、如何に配備し、如何に其取材の方法注意等によりて其出來榮に甲乙を生するかを明確に認知せしむる様なす事である。

第三には敷地の選定區劃の評定等に關しても出來べくんば最初より之に關與して一種の理想案を立てて進む事なり。

第四には充分の期日を與へて各部の計畫を最も愼密ならしめ絶対に遺漏なきを期すべき事とす。

從ひて住宅中の或部分又は或棟數は其構造内容等を一般民衆に知悉せしむる爲に半成の状態にあらしむべく、他は之を適當に施設し完備せしむべく、而して之に要したる圖面仕様書明細書建築費精算書等を明細に提示して、如何にすれば家は完全なり得るかの智識を正しく人々に與ふる様それ等の方法をつくし以て充分の効果を期すべきである。

銲 接 及 び 切 斷 用 語

我國ニ於テハ銲接ニ關スル標準用語ノ公定サレタモノガナイガ、茲ニ掲ゲルモノハ内務、海軍、逓信、鐵道ノ各省及警視廳、大學並ニ東京地方ニ於ケル有力ナル造船、橋梁ノ各會社ノ銲接ニ關係アル有志ノ技術者ニ依ツテ組織サレテキル銲接研究會ガ最近決定シタモノデア
ル。

是等ハ勿論今後各方面ノ御意見ヲ伺ツタ上尙訂正サル可キモノデア
ルガ、銲接ニ關係ヲモ
タレル専門家諸氏ノ御批判ヲ乞フト共ニ一般ノ方々ノ御參考ニナレバ幸デア
ル。

尙銲接研究會ニ於テハ茲ニ掲ゲル一般用語以外ニ目下引續キ多數ノ銲接用語ヲ制定中デア
ル。

銲 接 研 究 會

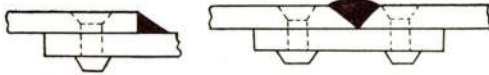
I 一 般 用 語 (General Terms)

1. 銲接 (Weld or Welding)
金屬ノ部分的融合ニ依ル接合ヲイフ。
2. 銲接法 (Welding process)
銲接ヲ行フ方法ヲイフ。
3. 鍛接 (Forge welding)
半銲融狀態ニ於イテ金屬ニ鎚打ヲ加ヘテ爲ス銲接ヲイフ。本銲接ニハ鍛冶、機鎚及ビ「ロール」銲接等ヲ含ムモノトス。
4. 壓接 (Pressure welding)
銲融ニ近キ狀態ニ於イテ金屬ニ機械的壓力ヲ加ヘテ爲ス銲接ヲイフ。本銲接ニハ抵抗及ヒ加壓「テルミット」銲接等ヲ含ムモノトス。
5. 融接 (Fusion welding)
銲融狀態ニ於テ金屬ニ機械的壓力又ハ鎚打ヲ加ヘズシテ爲ス銲接ヲイフ。本銲接ニハ瓦斯電弧及ビ「テルミット」銲接等ヲ含ムモノトス。
6. 母材 (Base metal)
銲接又ハ切斷セラルル金屬ヲイフ。
7. 銲接接手 (Welding joint)
銲接ニヨリ結合セル接手ヲイフ。
8. 混用接手 (Composite joint) 第1圖
銲接ト其ノ他ノ結合法トヲ併用セル接手ヲイフ。
9. 盲(メクラ)接手 (Closd joint) 第2圖
小口ト小口又ハ小口ト面トヲ豫メ接觸シテ銲接セル接手ヲイフ。
10. 開(ヒラキ)接手 (Open joint) 第3圖
小口ト小口又ハ小口ト面トノ間ニ豫メ間隙ヲ附シテ銲接セル接手ヲイフ。
11. 縁(ヘリ)接手 (Edge joint) 第4圖
母材ノ面ト面トヲ合セツノ縁ヲ銲接セル接手ヲイフ。
12. 銜合(ツキアハセ)接手 (Buit joint) 第5圖
母材ノ小口ト小口トヲ銜合セテ銲接セル接手ヲイフ。
13. 重(カサネ)接手 (Lap joint) 第6圖
母材ヲ重ネ合セテ一方ノ母材ノ小口ト他方ノ母材ノ面トヲ銲接セル接手ヲイフ。
14. 角(カド)接手 (Corner joint) 第7圖
母材ガ角形ヲ形成スル如ク銲接セル接手ヲイフ。
15. 丁接手 (Tee joint) 第8圖
母材ガ丁形ヲ形成スル如ク銲接セル接手ヲイフ。
16. 手銲接 (Manual welding)
主トシテ手ニテ行フ銲接ヲイフ。
17. 機械銲接 (Automatic welding)
主トシテ自動機械ニヨリ行フ銲接ヲイフ。
18. 底(ソコ) (Root) 第9圖、第13圖
銲接部斷面ニ於ケル底部ヲイフ。
19. 底線(テイセン) (Root edge) 第10圖
底部ニ於ケル接合線ヲイフ。
20. 底面 (Root face) 第11圖
底部ニ於ケル接合面ヲイフ。
21. 喉厚(ノドアツ) (Throat) 第9圖、第13圖
銲接部斷面ニ於テ底ヲ通ズル直線ニ沿ヒテ測リタル銲接ノ最小ノ厚サヲイフ。而シテ補強盛ヲ含マザルモノトス。
22. 趾端 (Tee) 第9圖、第13圖
銲接ノ表面ト母材ノ面トノ交線ヲイフ。
23. 層 (Layer) 第12圖
融接ニ於テ銲着金屬ノ層ヲイフ。
24. 脚(アシ) (Leg) 第13圖
隅肉銲接ニ於テ一方ノ銲着面ノ幅ヲイフ。
25. 銲接線 (We'd line)
「ビード」隅肉及銜合銲接ノ延長方向ヲ表ハス線ヲイフ。
26. 連續銲接 (Continuous weld) 第14圖
銲接線ニ於テ銲接部ノ連續セルモノヲイフ。
27. 斷續銲接 (Intermittent weld) 第15圖

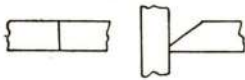
- 銲接線＝於テ銲部接ノ斷續セルモノナリ。
28. 並列銲接 (Chain intermittent weld) 第16圖
斷續銲接ノ並列ニ置カレタモノナリ。
29. 千鳥銲接 (Zigzag intermittent weld) 第17圖
斷續銲接ノ千鳥型ニ置カレタルモノナリ。
30. 假着ケ (Tack weld) 第18圖
組立ノ目的ニノミ使用スル斷續銲接ナリ。
31. 耐力銲接 (Strength weld)
應力ヲ傳フル事ヲ目的トスル銲接ナリ。
32. 填隙銲接 (Caulk weld)
接手ノ漏止ヲ目的トスル銲接ナリ。
33. 補強盛 (Reinforcement) 第9圖、第13圖
補強ノ目的ニテ標準形以上ニ盛リ上ゲタル銲着金屬ナリ。
34. 下向 (シタムキ) 銲接 (Flat welding) 第19圖
上方ヨリ下向ニナリテナス銲接ナリ。
但シコノ場合銲接線ハ水平ト45°以下ノ角度ヲナスモノトス。
35. 堅 (タテ) 銲接 (Vertical welding) 第20圖
側方ヨリ上下方向ニナス銲接ナリ。
但シコノ場合銲接線ハ鉛直ト45°以下ノ角度ヲナスモノトス。
36. 上向 (ウハムキ) 銲接 (Overhead welding) 第21圖
下方ヨリ上向ニナリテナス銲接ナリ。
但シコノ場合銲接線ハ水平ト45°以下ノ角度ヲナスモノトス。
37. 横 (ヨコ) 銲接 (Horizontal welding) 第22圖
側方ヨリ左右方向ニナス銲接ナリ。
但シコノ場合銲接線ハ鉛直ト45°以下ノ角度ヲナスモノトス。
38. 縁 (ヘリ) 銲接 (Edge weld) 第23圖
喉厚ノ方向ガ母材ノ小口ト直角若シクハ略直角ヲナス銲接ナリ。
39. 銜合 (ツキアハセ) 銲接 (Butt weld) 第24圖
喉厚ノ方向ガ少クトモ一方ノ母材ノ面ニ直角若シクハ略直角ヲナス銲接ナリ。
40. 隅肉 (スミエ) 銲接 (Fillet weld) 第25圖
喉厚ノ方向ガ母材ノ面ト45°若シクハ略45°ノ角度ヲナス銲接ナリ。
41. 側面隅肉 (Lateral fillet)
銲接線ノ方向ガ傳達スベキ應力ノ方向ニ平行ナル隅肉銲接ナリ。
42. 前面隅肉 (Frontal fillet)
銲接線ノ方向ガ傳達スベキ應力ノ方向ニ直角ナル隅肉銲接ナリ。
43. 斜方隅肉 (Oblique fillet)
銲接線ノ方向ガ傳達スベキ應力ノ方向ニ角度ヲ有スル隅肉銲接ナリ。
44. 銲加材 (Filler metal)
銲接部ニ銲加スル金屬ナリ。(銲接棒、電極棒、「テルミット」混合参照ノコト)
45. 銲接金屬 (Weld metal)
銲接部ヲ形成スル金屬ナリ。(銲接金屬部、銲着金屬部、融合部参照ノコト)
46. 銲着金屬 (Deposited metal)
銲加材ノ銲着セルモノナリ。
47. 銲接金屬部 (Weld metal zone) 第26圖
加熱ニヨリテ一旦半銲融又ハ銲融狀態トナリタル銲接部分ナリ。
48. 融合部 (Fusion zone) 第26圖
母材ガ銲融シテ銲着金屬ト融合セル部分ナリ。
49. 銲着金屬部 (Deposited metal zone) 第26圖
銲接金屬部ニ於テ銲着金屬ノミヨリナル部分ナリ。
50. 變質部 (Affected zone) 第26圖
銲接熱ノタメニ金屬組織ニ變化ヲ生ジタル母材ノ部分ナリ。
51. 原質部 (Unaffected zone) 第26圖
銲接熱ノタメニ金屬組織ニ變化ヲ生ゼザル母材ノ部分ナリ。
52. 銲込 (トケコミ) (Penetration)
銲接前ノ母材ノ面ヨリ測レル融合部ノ深サナリ。
53. 壺 (Crater)
電弧又ハ瓦斯焰ノ作用ニヨリ「ビード」ノ終端ニ生ズル凹所ナリ。
54. 氣泡 (Gas pocket)
銲融金屬凝固ノ際放出スベキ瓦斯ノ殘留ニヨリテ生ズル銲接部内ノ空所ナリ。
55. 銲滓 (Slag)
銲接部ニ殘留スル非金屬物質ナリ。
56. 中性焰 (Neutral flame) 第27圖
完全燃燒ヲナス銲接焰ナリ。
57. 炭火焰 (Carbonizing flame) 第28圖
遊離炭素ヲ有スル銲接焰ナリ。
58. 酸化焰 (Oxidizing flame) 第29圖
中性焰ヨリモ酸素量大ナル銲接焰ナリ。
59. 焰心 (Cone) 第27圖、第29圖
銲接焰中ニテロ金ノ直前ニ生ジ圓錐形ニシテ焰

- 中最高温ナル部分ヲイフ。
60. 逆火 (Back fire, or flash back)
 焰ガ口金又ハ瓦斯混合室或ハ「アセチレン」通路ニ逆行スルコトヲイフ。
61. テルミット反應 (Thermit reaction)
 酸化鐵ト「アルミニウム」トニヨリ、過熱鎔融セル鐵ト酸化「アルミニウム」ヲ生ズル發熱自導ノ反應ヲイフ。
62. 鎔接ノ大サ (Weld size)
 鎔接部斷面ノ計畫寸法ヲイフ。隅肉鎔接ノ大サハ脚ノ長サ、銜合鎔接ノ大サハ喉厚ニテ示スモノトス。
63. 鎔接ノ長サ (Weld length)
 中斷セザル鎔接部ノ長サヲイフ。但シ壺ノ長サヲ除クヲ例トス。
64. 鎔接ノ心距 (Weld spacing) 第16圖、第17圖
 斷續鎔接ノ心々距離ヲイフ。
65. 母材試験片 (Base metal test specimen)
 母材ノミヨリ成ル試験片ヲイフ。
66. 鎔加材試験片 (Filler metal test specimen)
 鎔加材ノミヨリ成ル試験片ヲイフ。
67. 鎔接部試験片 (Weld metal test specimen)
 母材ト鎔接部トノ合成試験片ヲイフ。但シ破斷ハ必ズ鎔接部ニ起ル如ク形成セラレタルモノトス。
68. 鎔接接手試験片 (Welded joint test specimen)
 鎔接接手ノ強サヲ驗スル目的ノ試験片ヲイフ。
69. 鎔着金屬試験片 (Deposited metal test specimen)
 鎔着金屬ノミヨリ成ル試験片ヲイフ。
70. 瓦斯切斷 (Gas cutting)
 瓦斯焰ヲ用ヒテ行フ金屬ノ切斷ヲイフ。
71. 炭素電弧切斷 (Carbon arc cutting)
 炭素電弧ヲ用ヒテ行フ金屬ノ切斷ヲイフ。
72. 金屬電弧切斷 (Metal arc cutting)
 金屬電弧ヲ用ヒテ行フ金屬ノ切斷ヲイフ。
73. 切溝 (キリミゾ) (Kerf)
 瓦斯又ハ電弧切斷ニヨリテ除去セラレタル金屬ノ間隙ヲイフ。
74. 定電壓鎔接機 (Constant voltage welding machine)
 全負荷ト無負荷トノ間ニ於テ電壓變化ヲ自動的ニ定格全負荷電壓ノ5%以内ニ保チ且回復時間ハ十分ノ三秒以内ナル鎔接機ヲ云フ。
75. 可變電壓鎔接機 (Variable voltage welding machine)
 電流ガ増加スルニツレテ電壓ハ自動的ニ減少スルモ定勢力鎔接機ノ如キ變化ヲナサマル鎔接機ヲイフ。
76. 定電流鎔接機 (Constant current welding machine)
 規定電弧電壓ニ於テ定格電流ヲ出スヤウニ調整シタルトキ、電弧電壓ガソノ規定値ノ10%以下ニ變動スルモノノ電流變化ヲ自動的ニ定格電流ノ5%以内ニ保チ且回復時間ハ十分ノ三秒以内ナル鎔接機ヲイフ。
77. 定勢力鎔接機 (Constant energy welding machine)
 規定電弧電壓ニ於テ定格勢力(出力)ヲ出スヤウニ調整シタルトキ、電弧電壓ガソノ規定値ノ10%以下ニ變動スルモ、勢力(出力)變化ヲ自動的ニ定格勢力ノ5%以内ニ保チ且回復時間ハ十分ノ三秒以内ナル鎔接機ヲイフ。
78. 陽極電壓降下 (Anode drop)
 電弧流ト陽極トノ間ノ電壓降下ヲイフ。
79. 陰極電壓降下 (Cathode drop)
 電弧流ト陰極トノ間ノ電壓降下ヲイフ。
80. 電弧流電壓 (Arc Stream voltage)
 電弧ノ瓦斯帶間ノ電壓ヲイフ。
81. 開路電壓 (Opencircuit voltage)
 鎔接電流ノ流レザルトキノ兩電極間ノ電壓ヲイフ。
82. 電弧電壓 (Arc voltage)
 電弧流電壓、陰極電壓降下、陽極電壓降下ノ總和ヲイフ。
83. 鎔接電弧電壓 (Welding arc voltage)
 電極棒保持器ト電弧ニ近イ母材トノ間ノ電壓ヲ言ヒ、之ハ電弧流電壓、陰極電壓降下、陽極電壓降下、電極中ニ於ケル電壓降下ノ總和ヲイフ。
84. 回復時間 (Time of recovery)
 自動的ニ調整セラル、鎔接回路ニ於テ、或ル一定ノ變化ヲ加ヘタルノチ、最終値トノ差ガソノ5%以内ニ達スルマデノ時間ヲイフ。
 鎔接機ノ回復時間ハ次ノ如クシテ測定ス。
 全負荷電流ヲ流シテ規定全負荷端子電壓ニナルガ如キ抵抗ヲ挿入ス、次ニコノ抵抗ノ値ノ半分ヲ短絡シ、定常狀態ニナルヲ待チテ急ニコノ短絡ヲ除去ス、然ルトキ電流及ビ電壓ト是等ノ最初値トノ差ガ最初値ノ5%以内ニ達スルニ要スル時間ヲ測定ス。

第1图 混用接头



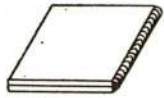
第2图 盲接手



第3图 内接手



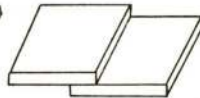
第4图 纵接手



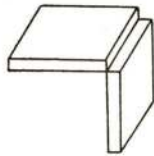
第5图 横合接头



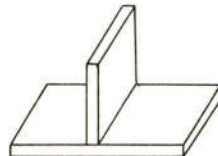
第6图 重叠接头



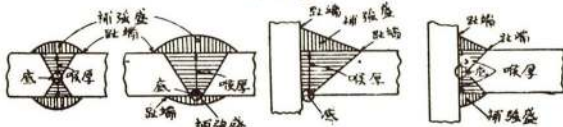
第7图 角接手



第8图 丁接头



第9图



第10图 底线



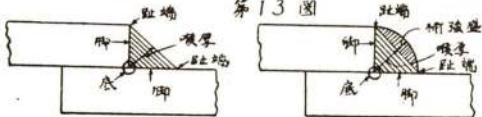
第11图 底面



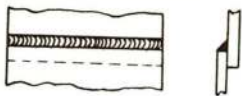
第12图 肩



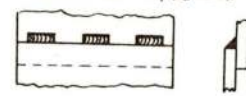
第13图



第14图 连续熔接



第15图 断缝熔接



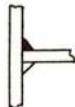
第16图

并列熔接

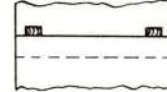


第17图

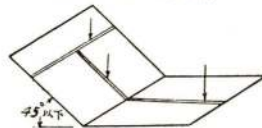
千鳥熔接



第18图 坡肩付

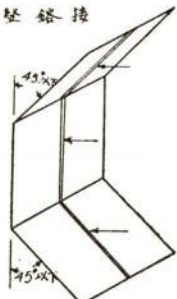


第19图 下向熔接



第20图

竖熔接

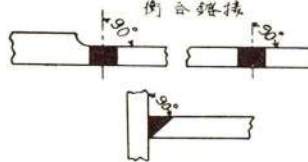


第21图 上向熔接



第24图

侧合熔接



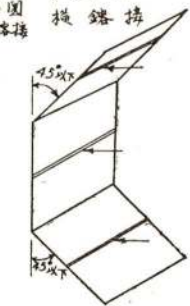
第23图

横熔接



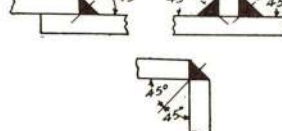
第22图

提熔接

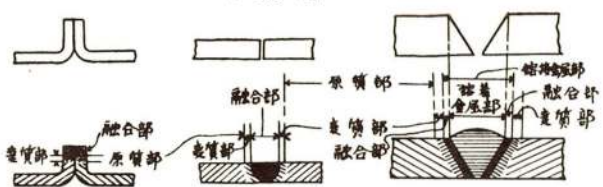


第25图

侧内熔接



第26图



第27图 中性焰



第28图 碳化焰



第29图 氧化焰



會 報

役 員 會

常 務 會

- 時 6月12日(月)午後6時—同9時
所 本協會別室
- 出席者 理事 池田 竹腰 監事 松室 主記
阪口 伴野 主計 清水 編輯 中村
- 議 事 1 6月例会に關する件
1 法制委員會より報告に係る市街地建築物法令改正に關し建議案の件
1 滿洲建築協會より照會に係る同會外三會聯合大會舉行に關する件
1 阪和住宅博協會出品住宅建築費支拂に關する件
1 見學委員會より報告に係る滿洲見學旅行實施案の件
1 綠ヶ丘保健住宅博協會出品住宅に付賣渡し價格に關する件
1 協會員入退會に關する通知書案の件
1 材料委員工場見學に關する件
1 會員詮衡
- 報 告 1 4月分會計報告
1 春季大會清算報告
1 新興建築展覽會終了報告
1 「市街地建築物法令」發行完了報告
1 常設委員會報告
1 特設委員會報告
1 記念事業委員會報告

常 務 會

- 時 6月19日(月)午後6時—同8時30分
所 本協會別室
- 出席者 理事 片岡 池田 竹腰 監事 德政
松室 主記 鳥井 丹藤 伴野 富士
岡 主計 清水 編輯 今林 高橋
中村 堀田
- 議 事 1 滿洲建築協會外三會聯合大會參加に關し經費支出の件
1 災害強度委員會より委員1名増員要求の件
1 住宅博殘務整理委員會より大美野、綠

ヶ丘兩住宅博賣殘出品住宅に關し報告の件

- 1 職員上半年賞與其他に關する件
1 會員詮衡

報 告 1 「ボーリング表」發行完了報告

常 務 會

- 時 7月3日午後6時—同9時
所 本協會別室
- 出席者 理事 池田 竹腰 監事 松室 主記
阪口 鳥井 伴野 主計 浦 清水
編輯 堀田
- 議 事 1 滿洲見學旅行並滿洲建築協會外三會聯合大會參加に關する件
1 法制委員會より報告に係る市街地建築物法令改正に關する建議案の件
1 大阪都市協會へ入會に關する件
1 建築學會に於て第7回建築展覽會開催に付會誌にて紹介の件
1 懸賞圖案集廉賣に關する件
1 「建築學研究」誌上へ「建築學研究會編輯」の文字挿入の件
1 常設、特設、記念の各種委員會事務に付職員分擔に關する件
1 會員詮衡
- 報 告 1 5月分會計報告
1 常設 法制、材料委員會報告
1 特設 百貨店建築委員會報告
1 記念 阪和、瑞光住宅博委員會報告
1 6月例会經過報告

會 員 動 靜

轉 動 轉 居

會 員

- 櫻田 文雄君 西宮市田中町31ノ1
牧野 忠君 神戸市灘區宮山町2ノ50
宇田 徹君 東區小橋西ノ町1產湯莊
清水 彌一君 北區中ノ島3ノ5大阪三井ビル新築場内高橋事務所
池田 宮彦君 天王寺區眞法院町60

竹内 作次君 府下中河内郡布施町大字森河内54
0

野田 義雄君 府下北河内郡守口町守口新道
同(地方在住)

岩井長三郎君 東京市豊島區池袋4ノ455

篠田 和雄君 關東軍經理部哈爾賓派出所

設樂 貞三君 大連市松風臺安居アパートGノ6
號

小川政次郎君 福岡市下土居町3(博多ビル)大倉
土木株式會社九州出張所

田中 留男君 大分縣佐伯町新町209

鹽川 鐵藏君 山口縣宇部市宇部室素工業株式會
社内錢高組詰所

竹中撰太郎君 兵庫縣津名縣洲本町外通字7 兵庫
縣農工銀行洲本支店新築工事

特別賛助員

磯田 竹次君 神戸市神戸區北長狭通7ノ4

船木 鐵雄君 兵庫縣武庫郡鳴尾村小林字里中6

三島 藤三君 東京市京橋區銀座7 平塚ビル辰巳
商會東京支店

普通賛助員

坂田 春彦君 石川縣松任町大正町(驛前)

大槻 貞夫君 奉天紅梅町32關東野戰航空廠々々

其他新築工事大林組奉天出張所

中矢 千歳君 旭區鳴野町163

前田佐太郎君 兵庫縣武庫郡魚崎町字今津魚崎小
學校大林組魚崎出張所内

吉田光太郎君 川崎市扇町1ノ18 三菱石油川崎製
油所社宅建築場大林組扇町出張所

神戸 重吉君 西成區粉濱東之町5ノ28

牧田 勝兵君 名古屋市南区熱田神宮坂町熱田神
宮修築工事場

白井 俊雄君 神戸市灘區篠原中町3ノ235

大野 健次君 岸和田市岸城町1814

篠原 兼二君 府下中河内郡八尾町大字山東324

藤生 飯藏君 府下泉南郡東百舌鳥村字土師新家
612ノ1

池田 本吉君 北區善源寺町6ノ40

佐々木俊一郎君 宇和島市縣立高等女學校建築事
務所

岸本 幸治君 住吉區北田邊町881 桃水園内高橋
五平氏方

阿部 保行君 神戸市須磨區大谷町8ノ8 譚井方

上野 達郎君 東京市杉並區荻窪1ノ162

石原佐津喜君 京都市左京區下鴨北園町14 葛川
邸新築工事場大林組葛川邸詰所

建築學會主催第七回建築展覽會

建築學會に於ては例年の通今秋十一月を期し同會々員の作品を以て第七回建築展覽會を
開催することになった、今回は下記規程の通り内容を二部に分ち第一部は自由出品、第二
部は懸賞設計競技として『國立公園に建つホテル』なる課題のもとに圖案を募集してゐる。

第七回建築展覽會規程

第一條 本會ノ會期、會場及事務所ハ次ノ如シ

會 期 昭和八年 自十一月一日
至十一月十日

會 場 東京朝日新聞社展覽會場(麹町
區數寄屋橋畔)

事務所 建築學會(東京市京橋區銀座西
三ノ一)

第二條 出品ヲ次ノ二部ニ分ツ

第一部 自由出品

第二部 懸賞設計應募出品

第三條 出品ハ建築學會會員ノ作品ニ限ル
但シ建築展覽會委員會ニ於テ適當ト認メ
タルモノハ此ノ限りニアラス

第四條 第一部ニ出品スヘキ作品ハ下記ノモノト
ス

イ、建築圖案

ロ、室内裝飾圖案又ハ作品

ハ、都市計畫、橋梁、庭園ノ圖案

- ニ、前各號ニ關係アル工藝品ノ圖案又ハ作品
ホ、前各號ノ寫眞又ハ模型
ヘ、高等工業學校程度以上ノ學校ニ於ケル建築科學生ノ卒業計畫
- 第一部ノ出品ニ對シテハ審査ヲ行ハス、全部陳列スルヲ原則トナセトモ會場ノ都合ニヨリテハ止ムヲ得ス取捨ヲナスコトアルヘシ
- 第二部ニ陳列スヘキ作品ハ懸賞競技應募圖案ニシテ鑑査ニ合格シタルモノトス
- 第五條 第一部出品ニツキ定ムル所次ノ如シ
- 一、出品ハ陳列ニ適當ナル裝置ヲナスコトヲ要ス
- 二、出品セントスルモノハ別記書式ノ出品申込書ニヨリ昭和八年九月三十日迄ニ本會事務所ニ申込マルヘシ
- 三、出品ハ總テ昭和八年十月二十日迄ニ本會事務所ニ到達スル様差出サルヘシ
- 四、出品ヲ受理シタルトキハ直チニ預リ證ヲ交付ス
- 第六條 第二部懸賞募集ニツキ定ムル所次ノ如シ
- 一、課 題 國立公園ニ建ツホテル
イ、敷 地 形狀、廣サ、其他任意
ロ、規模其他 約五十人ヲ容ル、モノニシテ國立公園ニ關スル自然科學小陳列所ヲ有スルモノトス
建物總面積、階數、構造、所要室等任意
- 二、所要圖面
配置圖縮尺 1/300
平面圖、立面圖（二面以上）斷面圖縮尺各

1/100 並ニ透視圖

用紙ハ大體原圖紙半折大、紙質自由、圖面ノ仕上ハ隨意トシ寸法ハ總テメートル法ニヨル特ニ説明ヲ要スル事項ハ之ヲ圖面ニ記入スルコト

三、暗 號 應募圖案ニハ署名ニ代フルニ暗號ヲ以テシ別ニ暗號ノミヲ表記セル封筒内ニ應募者ノ暗號、住所氏名ヲ明記セル紙片ヲ封入シ之ヲ添付セラルヘシ

暗號ハ簡單ナル日本文字ニ限ル

四、締切期日 昭和八年十月二十日（金）正午迄ニ建築學會事務所ニ提出スルモノトス

五、審査員 今井 兼次 大熊 喜邦
岸田日出刀 山下 壽郎
渡 邊 仁 （五十音順）

六、賞 應募圖案ニシテ鑑査ニ合格シタルモノ、内特ニ優秀ナルモノニ對シテハ金牌又ハ銀牌及副賞トシテ夫々賞金ヲ贈與ス其ノ數ハ審査ノ結果之ヲ定ム

第七條 出品ノ保管ハ最善ノ注意ヲ拂フト雖モ火災其他ノ場合ニ於ケル出品ノ紛失又ハ損害ニ對シテハ一切其ノ責ニ任セス

第八條 出品ノ荷造及運搬ノ費用ハ出品者ノ負擔トス但シ在京會員以外ノ出品者ノ圖面及寫眞ニ限リ本會ノ費用ヲ以テ返送ス

第九條 出品ノ陳列法及場所ノ區劃等ハ本會ニ於テ之ヲ定ムルモノトス

第十條 陳列シタル出品ハ閉會後ニ非サレハ之ヲ搬出スルコトヲ得ス

第十一條 出品ハ閉會ノ翌日午後五時迄ニ會場ニ於テ受領セラルヘシ

第七回建築展會第一部出品申込書

昭和 年 月 日

建築學會 御 中

出品者 氏 名 員

住 所

下記ノ通り第七回建築展覽會規程ニ依リ出品申込ミヲ致シマス

製 作 者	氏 名 及 會 員 別	員					
	住 所						
	勤 務 先						
題 目							
出品物ノ種類							
數 量		寸 法					
備 考							

(昭和八年)

役 員

[illegible]

助清二正夫三一道武
之盛種謙亮正信
清田木子名畑藤多田
井松増八呼新東内本吉

編輯部員

同同同編同同同同

建築學研究編輯會

治	治造弓諒二助武
恒	榮健眞厚之信
東	橋腰澤井清木田
伊	高竹瀧棚藤八吉
員	
委	同同同同同同

委員	委員
----	----

都市計畫委員會

委員	長 幹事員	松加北伊岩作新城松吉	室藤 垣藤本	重善 熊	光吉介夫人
委員	幹事員	浦田	間名	和眞	生夫郎助武信
委員	幹事員	島	井	出種	
委員	幹事員			三之信	

法制委員會

雄一郎	治三	激郎	吾一	太郎
敏次	誠代	寛治	經金	亮彦
豐喜	田川	瀬榮	政藤	林
田置	井田	藤田	政藤	林
津玉	坪秋	石楠	武德	内
長事	事員			
委幹	幹委	同同	同同	同同
員				

教化委員會

實郎郎 三五 田勇 宇井谷 古酒瀧 長事事 員 委幹幹

治重郎	作一	武水一							
恒知	五	太穀	春	重					
東田	忠	木澤	野	本	富				
伊芝	鈴	高	永	姬	山				
員									
委同	同	同	同	同	擔				

材料委員會

委員長	幹事	委員	須小兒白高橋松道山	川西玉川岡松久田中阪	廉廣興平泰口	太一太雄三太敬治茂芳	郎良一郎吉郎勉三郎一郎
			事務				

災害強度委員會

[illegible]

設備委員會

[illegible]

住宅委員會

郎藏平 一新 壯野 葛淺增 長事 委幹幹

銅郎介二郎一
一之兼太正
原壯熊 廉
笠野垣 崎川木
小葛北篠須藤
員員員員員
委委委委委委

委員長 藤井 厚二

實雄	武太	田井	池	長員	委員	副
郎衛	保	宗	安	事	事	幹
郎助	次之	新	伊岩	事	事	幹
平	新	熊	岡北	事	事	幹
		山	增			

編 輯 後 記

□銷金鑠石の暑さに人は海に山にと涼を訪ねて行く。が會員の大部の方は風通しの悪い事務所や、炎天に焦げつく現場に其日其日の勤めがあるであらう。難しい論議も徒らに睡魔の呼ぶに過ぎぬ本號には寫眞や圖面許りで新建築の紹介をすることとした。

□最近と云つてもこの一年間程に竣工したものの中から、成るべく種類廣く且代表的のものを撰んだ。當然載せるべくして脱したものが多し。寫眞を入手し難かつたり或は間に合はなかつたりして次の機會に譲つたのも可成あつた。

□この雑誌としてはあくまで新築建物の紹介であつて批判的態度を排した。外觀も内部も寫眞も圖面も虚心に排列した。

□が原稿紙にゲラ刷を貼付けつゝ色々な感に打たれる。優れた人の話は聞いて得る所がある、たゞの人でもどこかに我師とする所がある。以前には秀れた建物を見ては羨

しかつた、拙いものには義憤を感じた。が今は何れもその眞度さに合掌する氣持になつて來た。

□新建築紹介も請負者の工事畫報に類すると貶す人があるかも知れないけれども、百年二百年の後建物はよし残つても、設計者の名もその苦心も、施工者の名もその勞苦も、皆忘れられてしまうかも知れない。その記録をとゞめておくのも無駄なことではなからう、況んや百年の後建物が亡失してしまうかも知れないのである。

□次號は都市計畫號である、都市計畫委員の方で膳立がなつて着々と進んでゐる。シビツク・センターの懸賞と相呼應して立つたものである。

□雑誌も大分豫算を超過して來たその中に緊縮した號を出す必要に迫られてゐる、延びるは易く縮むいと難しい業ではあるが。

(高橋榮治)

建 築 と 社 會

第 16 輯 第 7 號

毎月1回1日發行 定價 1冊 .50圓(郵税2錢)
12冊 6.00圓(同 24 錢)

昭和8年6月25日印刷 昭和8年7月1日發行

發行・編輯 鷹 取 陽
印 刷 人

西宮市今津町大字浦風56番地

印 刷 所 大 阪 活 版 所

大阪市東區内淡路町1丁目7番地

發 行 所 日 本 建 築 協 會

大阪市北區中之島3ノ3朝日ビル

電話長本局(23)4500番(6)

振替口座大阪39.975番

特約販賣店 柳々堂書店

大阪市西區京町堀羽子板橋北

電話土佐堀 2440番

振替口座大阪 2084番

禁 轉 載

本誌に掲載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行為をなすことを禁ず。

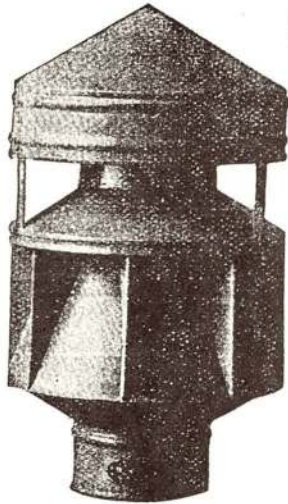
廣 告 掲 載 料 金

普 通	1 頁	1 回	15.00
普 通	1/2 頁	1 回	8.00
普 通 (前附第1頁)	1 頁	1 回	45.00
普 通 (前附第2頁)	1 頁	1 回	40.00
普 通 (後附第1及最終頁)	1 頁	1 回	25.00
ア ー ト (中 挿)	1/2 頁	1 回	20.00
表 紙 2	1 頁	1 回	60.00
表 紙 3	1 頁	1 回	45.00
表 紙 4	1 頁	1 回	80.00
建築事務所録	1 欄	1 回	1.50
(建築関係業者案内)	1 欄	1 回	5.00

御 注 文

御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます郵券代用は一割増、代金引換はお斷り致します。

頭氣排式島宮特許アル評定



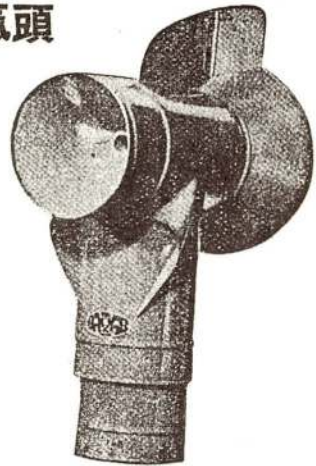
(固定形)

省官諸
御用

(本機ハ吸入器ノ原理同用
ノモノニ付効果確實ナリ)

排氣頭ノ
眞價ハ
排氣量ニアリ

排氣換氣ハ
健康ノ基



(風向變換形)

特 第一二五八二七號
第一二三一九六號
第七三三六〇號
許 第七三三六〇號

特 第一一〇〇七號
第一四二七四九番
許 第一四二七五〇番

請負工事衛生パイニ並取付及販賣頭氣排

宮島康夫商店

東京市赤坂區青山北町一丁目四番地(神宮外苑入口)
電話青山(36)四七二九番振替口座東京五八四八七番

カタログ
進呈

ヨネ フラッシュ バルブ

水 洗 便 所 洗 滌 弁

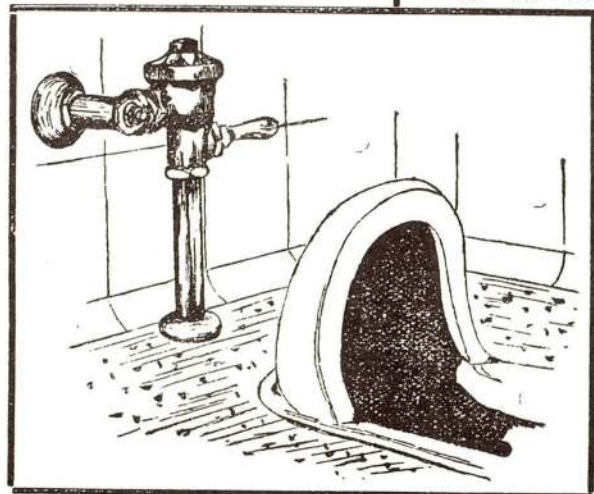
專賣特許
實用新案
商標登録

大蔵省 警務局 警務課 警務課 警務課
東京市 警務局 警務課 警務課 警務課
大阪府 警務局 警務課 警務課 警務課
兵衛町 警務局 警務課 警務課 警務課
大兵衛 警務局 警務課 警務課 警務課
名古屋 警務局 警務課 警務課 警務課
南洲總 警務局 警務課 警務課 警務課
臺灣總 警務局 警務課 警務課 警務課

御指定

米本榮商店

大阪市北區梅田新道
太平ビルヂング四階
電話北八一八番
振替大阪四八二七番

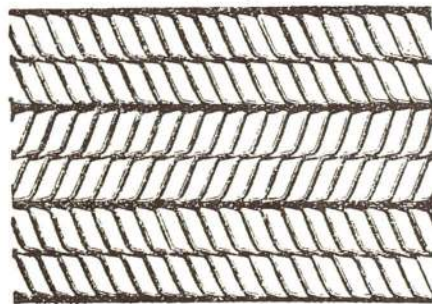


建築と社會第16輯第7號 廣告索引

ダ	ダンロップ護謨株式会社	中挿
	重寶商會	32
ヂ	デョイント商會大阪支店	16
ト	東洋リノリウム株式会社	29
	東京電気株式会社	3
ナ	内外土木建築材料合資会社	28
	南滿鐵業株式会社	14
ニ	日本ベイント株式会社	19
	日本建築紙工株式会社大阪支店	23
	西原衛生工業所人販支店	15
	西孫南店建築金物部	17
	日本エレベーター製造株式会社	36
	日本鋼製建具株式会社	40
	日本ドーアーチェック製作所	7
	日本金具株式会社	中挿
	日本鋼鐵家具株式会社	32
ノ	野澤幸三郎商店	22
ヒ	日置合名会社	24
	平松鈞戸車製作所	39
フ	藤田商會	10
	福島合名会社	24
マ	マルエス工業株式会社	7
ミ	ミナト製作所	6
	三井物産株式会社	9
	宮島康夫商店	41
ヤ	大橋大理石商店	10
	大和護謨製作所	34
	山本繁業商店	14
	山本東作商店	43
ヨ	横河橋梁製作所	20
	米本榮商店	41
レ	玲光社(木内寛太郎)	28

ヤハズラス

特許



ダ ブ ル

ダブル

◇特徴

、網目の刻み方が最も合理的でモルタルの
行渡りに留意されてあるのでモルタルとの
馴染良く施工が極めて容易で而かも耐久力
強大であります

福島合名會社大阪支店

版 42